診療部門（内科系）のご案内

心臓・血管内科 / 循環器内科

□ 診療内容

当科は、心臓疾患や末梢血管疾患、肺循環疾患、睡眠時無呼吸症候群の診療を行っており、専門的な診療体制を敷き、24時間365日対応しています。

【疾患名】

心臓疾患

狭心症、心筋梗塞、心不全（移植を考慮した重症心不全含む）、心筋炎、心筋症（薬剤性心筋症、ファブリー病含む）、感染性心内膜炎、心臓弁膜症（高齢者の大動脈弁狭窄症含む）、睡眠時無呼吸、不整脈（心房細動、致死性不整脈含む）

末梢血管疾患

閉塞性動脈硬化症（重症虚血肢、バージャー病含む）

肺循環疾患

肺高血圧、肺塞栓、深部静脈血栓症

睡眠時無呼吸症候群

【主な検査とその説明】

心臓超音波検査（心エコー）

心臓の形態、動き、血流を直接その場で観察します。経胸壁、経食道エコーや負荷エコー等施行しています。当院は日本超音波学会の専門医研修認定施設です。

心臓カテーテル検査

カテーテルを挿入し、心機能の評価や冠動脈造影検査、心臓、肺動脈、末梢動脈の造影検査を行っています。狭心症の検査は短期（2から3日）の入院が基本です。

心臓電気生理検査

カテーテルを挿入し詳しい不整脈の診断・治療を行います。検査も短期の入院（3から4日）で実施でき、CARTO systemやEnSite Systemを導入し診断精度を上げています。

ループ式植え込み型心電計

ホルター心電図より長期間心電図を記録することで、失神の原因特定や、脳梗塞発症の原因が心房細動によるものか診断するのに有効です。

睡眠ポリグラフ検査

夜間だけの入院で精密検査を行っています。

【得意とする治療】

経皮的冠動脈形成術（PCI）、末梢血管カテーテル治療（EVT）

狭心症や心筋梗塞の原因である冠動脈や末梢動脈の狭窄や閉塞に対し、大腿や腕の動脈からカテーテルを挿入し冠動脈、末梢動脈を再開通させる治療法です。当科は日本心血管インターベンション治療学会研修施設に認定され、年間約700症例の治療を行っております。

高周波カテーテルアブレーション（焼灼術）

WPW症候群や上室性頻脈、心房細動や心房粗動、心室性期外収縮や心室頻拍などに対し治療を行っています。特に心房細動治療において、高周波アブレーション、クライオバルーン、ホットバルーンを駆使し、成功率が向上しています。当科は日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設に認定され、年間約300症例に治療を行っております。

恒久式ペースメーカー

徐脈性不整脈、房室ブロックを対象に恒久式ペースメーカー植え込み術を行っています。また当施設はリードレスペースメーカー認定施設でもあります。

植え込み型除細動器（ICD）

難治性の心室性不整脈症例にICD 植え込み術を行っています。当施設では皮下植込み型除細動器（S-ICD）の認定施設でもあります。

心臓再同期療法（CRT、CRT-D）

重症心不全治療として心臓再同期療法（CRT）を行っています。難治性の心室性不整脈合併症例には除細動機能を備えたCRT-Dの植え込み術を行っています。

心臓リハビリテーション

急性心筋梗塞、慢性心不全改善後の運動指導、安全管理、危険因子管理、心のケアなどを総合的に行い再発予防に努めます。また下肢閉塞性動脈硬化症に対する運動リハビリテーションも行っています。入院症例延べ200人/月、外来通院症例延べ600人/月に心臓リハビリテーションを行っています。

和温療法

鄭忠和特任教授（和温療法研究所所長、前鹿児島大学教授）が開発された治療法で、和温療法専用器（遠赤外線乾式サウナ治療室）に入り全身を温め心地よい発汗をもたらし心身をリラックスさせる非薬物療法です。重症心不全や重症下肢虚血、皮膚潰瘍の患者さんに有効な治療法です。

経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）

大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療です。カテーテルを用いて狭窄している大動脈弁に人工弁を装着します。高齢などの理由で外科的な手術が困難な患者さんに対する新しい治療の選択肢となっており、年間約50症例の治療を行っています。

経皮的僧帽弁接合不全修復術（マイトラクリップ治療）

高齢などの理由で外科的な手術が困難な重度の僧帽弁閉鎖不全症に対する治療法です。カテーテルを用いて低侵襲に逆流している僧帽弁にクリップを装着して逆流を軽減します。

経皮的卵円孔開存閉鎖術

奇異性脳塞栓症の再発予防のための新たなカテーテル治療です。

経皮的左心耳閉鎖術

心房細動による脳塞栓症の原因となる心臓内血栓の発生しやすい左心耳という部位を閉鎖（ふさぐ）する手術です。出血などの合併症で抗凝固療法が困難な方に対して、体への負担の少ないカテーテルを用いWATCHMAN™（ウォッチマン）という器具で左心耳を閉鎖することによって脳塞栓症の発症を予防します。

再生医療

内服加療やEVT、バイパス術でも完治し得ない重症虚血肢に対し、脂肪組織由来間葉系幹細胞（ADRC）を用いた血管再生治療を行っています。

□ 専門外来

虚血性心疾患（佐久間・金谷・西野・米澤・和久・橋本）
不整脈（南・北川）
ペースメーカー（南・仲島・北川・齋藤・井上（弘）・飯田）
重症心不全（豊田・伊波・正和）
腫瘍循環器（伊波）
肺血栓塞栓症・肺高血圧症（天野）
重症下肢閉塞性動脈硬化症（佐久間）
睡眠時無呼吸症候群（有川）
経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）外来（廣瀬）
経皮的僧帽弁接合不全修復術（マイトラクリップ治療）外来（金谷）
心臓リハビリテーション外来（中島・八木）

診療部長　豊田　茂
医局長　北川　善之
外来医長　伊波　秀
病棟医長　古藪　陽太

外来受付電話番号　0282-87-2191
新患外来および専門外来は予約が必要です。
電話番号　0282-87-2332（予約受付時間は 13 時から 16 時まで）

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
豊田　茂	教　授	心不全	心不全、心筋症、弁膜症、心エコー	＊1 ＊3 ＊4
中島　敏明	特任教授	循環器疾患	心臓リハビリテーション	＊3
内藤　滋人	特任教授	不整脈	アブレーション	＊3 ＊6
佐久間理吏	教　授	虚血性心疾患	虚血性心疾患、冠動脈インターベンション	＊1 ＊3
八木　博	准教授	循環器疾患	心不全、心不全緩和ケア、心臓リハビリテーション	＊3
有川　拓男	准教授	心不全	心不全、心筋症、睡眠時無呼吸	＊3
金谷　智明	准教授	虚血性心疾患	虚血性心疾患、冠動脈インターベンション	＊1 ＊3 ＊5
南　健太郎	准教授	不整脈疾患	カテーテルアブレーション、ペースメーカー	＊2 ＊3 ＊6
伊波　秀	講　師	心不全	心不全、弁膜症、心エコー	＊3 ＊4
西野　節	講　師	虚血性心疾患	冠動脈インターベンション、血管内画像診断	＊3
北川　善之	講　師	不整脈	ペースメーカー、アブレーション	＊3 ＊6
古藪　陽太	講　師	虚血性心疾患	冠動脈インターベンション	＊3
鈴木　英彦	非常勤講師	心不全	心不全、心筋症、心筋炎	＊3
天野　裕久	非常勤講師	肺循環疾患心不全	肺血栓塞栓症、肺高血圧	＊1 ＊3 ＊4
山口すおみ	非常勤講師	循環器疾患	虚血性心疾患、心臓リハビリテーション	＊3
福嶋　博道	非常勤講師	循環器疾患	虚血性心疾患、血管疾患	＊1 ＊3
春山亜希子	非常勤講師	心不全	心不全、心臓画像診断	＊3
米澤　泰	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	＊3
廣瀬　優	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	＊3
仲島　宏輔	助　教	不整脈	ペースメーカー、アブレーション	
正和　泰斗	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
渡邊　諒	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	＊3
和久隆太郎	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
石田　和俊	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
橋本　涼太	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	＊3
綿引　愛美	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	＊3
齋藤　郁太	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	＊2 ＊3
西川　理壱	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	＊2 ＊3
飯田圭太生	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	＊2
井上　弘貴	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
井上　莉里	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	＊2
上原　大毅	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
鈴木立二朗	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
篠田　雄平	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
先川はるか	助　教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
横町　淳	非常勤助教	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
安宅威久男	レジデント	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
金井　理晃	レジデント	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
髙山　紗和	レジデント	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
前田甲雄太	レジデント	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
青柳　正英	レジデント	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
黒﨑　時生	レジデント	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
小手川太郎	レジデント	循環器疾患	心臓血管疾患一般	
宗　建佑	レジデント	循環器疾患	心臓血管疾患一般	

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください
＊1：一般社団法人　日本内科学会　総合内科専門医
＊2：一般社団法人　日本内科学会　内科専門医
＊3：一般社団法人　日本循環器学会　循環器専門医
＊4：公益社団法人　日本超音波医学会　超音波専門医
＊5：一般社団法人　日本心血管インターベンション治療学会　心血管カテーテル治療専門医
＊6：一般社団法人　日本不整脈心電学会　不整脈専門医

□ その他

高度医療

○急性心筋梗塞・狭心症：冠動脈インターベンション（PCI）による治療（ロータブレータ、方向性冠動脈粥腫切除術、ショックウェーブ）
○下肢閉塞性動脈硬化症：クロッサー閉塞部貫通カテーテル
○頻脈性不整脈：高周波カテーテルアブレーション（焼灼術）による治療
○難治性心室性頻拍：植え込み型除細動器（ICD）、皮下植え込み型除細動器（S-ICD）による治療
○徐脈性不整脈：リードレスペースメーカー植え込み術
○重症な拡張型心筋症や虚血性心筋症：心臓再同期療法（CRT）による治療
○重症心不全：経皮的心肺補助装置（PCPS）、補助循環用ポンプカテーテル（インペラ）、和温療法
○大動脈弁狭窄症：経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）
○僧帽弁閉鎖不全症：経皮的僧帽弁接合不全修復術（マイトラクリップ治療）
○徐脈性不整脈：リードレスペースメーカー植え込み術
○重症虚血肢：脂肪由来幹細胞（ADRC）を用いた再生医療、和温療法
○奇異性脳塞栓症の再発予防：経皮的卵円孔開存閉鎖術
○心内血栓症の予防：経皮的左心耳閉鎖術

消化器内科

□ 診療内容

当科では、消化器内科全般すなわち消化管疾患および肝・胆・膵疾患についての診療を行っています。

外来患者さんは１日平均約135名であり、毎日、外来担当医３名のほかに新患・予約外担当医１～２名を置き、紹介患者さんや急患に対応しています。また、月・火・金曜日には専門外来として胆・膵疾患や炎症性腸疾患外来を設け、診療にあたっています。

入院では、肝臓（ウィルス性肝炎の抗ウイルス治療や肝細胞癌の治療など）、胆膵（胆石胆嚢炎の内科治療、総胆管結石の内視鏡的治療、悪性腫瘍の診断など）、消化管（消化管出血や悪性腫瘍の診断治療など）と多岐にわたる疾患を扱っています。当科の診療に不可欠な外科との連携もスムーズに行われています。また、消化管出血や閉塞性黄疸などに対する緊急処置も多数行っており、夜間、休日でも十分な対応が可能です。

□ 特徴・特色

胃炎や大腸炎から、下記のような先端医療まで幅広く対応しています。

○超音波内視鏡による胆膵疾患の診断と治療（EUS-FNA）
○閉塞性黄疸に対する緊急ドレナージ（内視鏡的・経皮的）
○総胆管結石の内視鏡的砕石除去
○胆道狭窄に対するステント挿入
○ヘリコバクター・ピロリの診断と治療
○消化管出血（潰瘍、食道静脈瘤破裂など）の内視鏡的止血・治療
○食道癌・胃癌・大腸癌の診断と治療（超音波内視鏡検査、拡大内視鏡検査、内視鏡的粘膜下層剥離術など）
○小腸疾患の診断と治療（カプセル内視鏡、バルーン内視鏡）
○炎症性腸疾患の診断と治療（顆粒球除去療法、生物学的製剤による治療など）
○急性および慢性肝障害の診断と治療（肝生検、超音波による肝硬度の測定など）
○ウィルス性肝炎の診断と治療（インターフェロンフリー治療）
○肝細胞癌の早期診断と治療（ラジオ波焼灼療法などの経皮的穿刺治療、肝動脈塞栓術、リザーバーによる肝動注など）

設備としては、５室＋Ｘ線透視可能な２室を擁する内視鏡室、造影エコー法など精査にも対応する超音波検査室、DSAなど充実しており、上部・下部内視鏡検査、超音波検査は年間約5,000件、血管造影検査は年間約300件と多数の検査・治療を行っています。

□ 外来曜日別診療医

月曜日：平石　秀幸　特任教授
　　富永　圭一　准教授
　　金森　　瑛　講師
　　田中　孝尚　医員
　　吉永　智則　医員
火曜日：入澤　篤志　教授
　　郷田　憲一　教授
　　佐久間　文　医員
　　小島原駿介　医員
水曜日：菅谷　武史　准教授
　　牧　　匠　医員
　　嘉島　　賢　医員
　　近藤　真之　医員
　　坂本　智哉　医員
木曜日：大西　俊彦　医員
　　久野木康仁　医員
　　福士　　耕　医員
　　稲葉　康記　医員
　　石川　　学　医員
金曜日：飯島　　誠　准教授
　　山宮　　知　講師
　　眞島　雄一　医員
　　渡邊　詔子　医員
　　手塚　勇吾　医員

□ ご注意

○定期外来は全て予約制です。担当医師を指名した紹介状を持参された場合も初診時は新患・予約外担当医師が診察し、再診時に指名された担当医師の予約を入れさせていただくことがあります。
○内視鏡検査、超音波検査は全て予約制です。また土曜日には行っておりませんのでご了承下さい。
○土曜日の新患外来受付は行っておりません。急患のみの対応となっております。

診療部長	入澤（いりさわ） 篤志（あつし）
医局長	菅谷（すがや） 武史（たけし）
外来医長	田中（たなか） 孝尚（たかなお）
病棟医長	金森（かなもり） 瑛（あきら）

外来受付電話番号　0282-87-2192

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
入澤（いりさわ） 篤志（あつし）	教　授	消化器（胆膵）	胆膵疾患の診断と治療、門脈圧亢進症、上部消化管疾患の診断と治療	＊1 ＊2
平石（ひらいし） 秀幸（ひでゆき）	特任教授	消化器一般	胃癌、消化性潰瘍、炎症性腸疾患、内視鏡治療、臨床肝臓病学	＊1 ＊2 ＊3
郷田（ごうだ） 憲一（けんいち）	消化器内視鏡センター 教　授	消化器（消化管）	内視鏡診断治療（食道・胃・十二指腸・大腸）、逆流性食道炎・バレット食道	＊1 ＊2
飯島（いいじま） 誠（まこと）	准教授	消化器（肝臓）	肝腫瘍の診断・治療、腹部血管造影、腹部IVR、門脈圧亢進症	＊1 ＊3
冨永（とみなが） 圭一（けいいち）	准教授	消化器（消化管）	消化管、特に炎症性腸疾患の診断と治療	＊1 ＊2
菅谷（すがや） 武史（たけし）	准教授	消化器（消化管）	消化管、特に炎症性腸疾患の診断と治療	＊1 ＊2 ＊3
山宮（やまみや） 知（あきら）	講　師	消化器（胆膵）	早期慢性膵炎の診断と治療、胆道疾患の診断と治療	＊1 ＊2
金森（かなもり） 瑛（あきら）	講　師	消化器（消化管）	消化管腫瘍の内視鏡診断と治療	＊1 ＊2 ＊3
眞島（まじま） 雄一（ゆういち）	助　教	消化器（肝臓）	肝疾患、血管造影による診断、治療	
大谷津（おおやつ）まり子（こ）	助　教	消化器一般	消化器一般	＊1
大西（おおにし） 俊彦（としひこ）	助　教	消化器（肝臓）	肝疾患、血管造影、ラジオ波	＊3
渡邊（わたなべ） 詔子（しょうこ）	助　教	消化器（消化管）	消化管、特に炎症性腸疾患の診断と治療	＊1 ＊2
田中（たなか） 孝尚（たかなお）	助　教	消化器（消化管）	炎症性腸疾患の診断と治療	＊1 ＊2 ＊3
牧（まき） 匠（たくみ）	助　教	消化器（胆膵）	胆膵疾患の診断と治療	＊1
嘉島（かしま） 賢（けん）	助　教	消化器（胆膵）	胆膵疾患の診断と治療	＊1 ＊2 ＊3
久野木（くのぎ）康仁（やすひと）	助　教	消化器（胆膵）	胆膵疾患の診断と治療	＊1 ＊2 ＊3
佐久間（さくま） 文（ふみ）	助　教	消化器（胆膵）	胆膵疾患の診断と治療	＊1 ＊2
近藤（こんどう） 真之（まさゆき）	助　教	消化器（消化管）	内視鏡診断治療（食道・胃・十二指腸）、逆流性食道炎・バレット食道	＊1 ＊2
住谷（すみや） 睦（むつみ）	助　教	消化器（消化管）	炎症性腸疾患の診断と治療	＊2
小島原（こじまはら）駿介（しゅんすけ）	助　教	消化器（消化管）	炎症性腸疾患の診断と治療	
稲葉（いなば） 康記（やすのり）	助　教	消化器一般	消化器一般	
吉永（よしなが） 智則（ともの り）	助　教	消化器一般	消化器一般	
手塚（てつか） 勇吾（ゆうご）	助　教	消化器一般	消化器一般	
石川（いしかわ） 学（まなぶ）	助　教	消化器一般	消化器一般	
坂本（さかもと） 智哉（ともや）	助　教	消化器一般	消化器一般	

この他に、約10名の医師が交代で新患・予約外来を担当しています。
＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般財団法人　日本消化器病学会　消化器病専門医
＊2：一般社団法人　日本消化器内視鏡学会　消化器内視鏡専門医
＊3：一般社団法人　日本肝臓学会　肝臓専門医

□ その他

回診、カンファレンス

○カンファレンス　　月　　pm 6:00 ～
○教授回診　　木　　am 8:00 ～（チャート）及びpm 1:30 ～（ラウンド）

血液・腫瘍内科

□ 診療内容

当科では血液疾患全般について診療を行っております。対象となる症候、検査異常、疾患は以下の通りです。

○症候：貧血、リンパ節腫脹、脾腫、原因不明の発熱、出血傾向など。

○検査値の異常：貧血、赤血球増加、白血球増加、白血球減少、好酸球増加、血小板減少、血小板増加、血清M蛋白の出現、凝固線溶系の異常など。

○対象疾患：各種貧血（再生不良性貧血、溶血性貧血、悪性貧血、鉄欠乏性貧血、骨髄異形成症候群など）、各種白血病（急性白血病、慢性白血病）、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、真性赤血球増加症、骨髄線維症、本態性血小板血症、無顆粒球症、伝染性単核球増加症、血球貪食症候群、原発性マクログロブリン血症、血小板減少性紫斑病（特発性、血栓性）、血友病、免疫不全症（AIDSを含む）など。

○患者さんを紹介された医療機関へは、初診時、入退院時、治療経過中の折目の時点で迅速にご報告をさせて頂きます。

□ 特徴・特色

○日本血液学会専門医９名が診療を担当しています。

○診断は染色体/遺伝子診断をもとに、病理診断も交え総合的に行っています。

○無菌室13床、完全無菌室２床を含む43床をメイン病棟に備え造血幹細胞移植（骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植）や化学療法、分子標的療法を行っています。

○外来通院で化学療法を行う場合は、外来化学療法室にて、専任医師、看護師、薬剤師の管理のもと治療を行っています。

○高齢の方や合併症のある方などには、患者さんの病態に応じQOLを配慮した治療法も選択しています。

○治療法の選択にあたっては十分な説明をさせていただくとともに、セカンドオピニオンを希望される場合は迅速に対応させていただきます。

□ 治療および成績

○骨髄異形成症候群では、予後予測因子の指標をもとにリスク分類し、低リスク群には免疫抑制療法やビタミン療法、ダルベポエチン、レナリドミド、アザシチジンなどを用いた治療を行っています。
高リスク群にはアザシチジン、化学療法、同種移植を行っています。

○急性白血病では標準的化学療法に加え、高用量シタラビン療法を行い、適応症例は同種移植を積極的に行っています。また、FLT3阻害剤、BCL2阻害剤、BTK阻害剤など新規分子標的薬や抗体療法も行っています。

○慢性骨髄性白血病はチロシンキナーゼ阻害剤（イマチニブ、ダサチニブ、ニロチニブ、ボスチニブ、ポナチニブ）の治療により90％以上の治療効果を得ています。

○骨髄増殖性疾患（真性多血症や本態性血小板血症など）にアナグレリド、ルキソリチニブの投与をおこなっています。

○悪性リンパ腫ではPET検査などで病期診断し、病理組織診断に基づきリツキシマブ、オビヌツズマブ、ブレンツキシマブ・ベドチンを併用した化学療法や自家末梢血幹細胞移植を行っています。エプキンリ（二重特異性抗体）も使用しています。

○多発性骨髄腫では、初発例にはボルテゾミブ、レナリドミド、ダラツムマブを中心とした薬剤を用い、再発・難治例には新規薬剤であるポマリドミド、カルフィルゾミブ、イキサゾミブ、エロツズマブ、イサツキシマブをボルテゾミブやレナリドミドなどに組み合わせた治療を行っています。

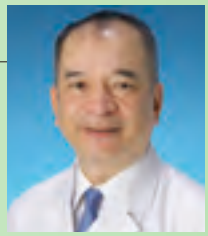
○2000年４月～2023年３月までにおよそ300例に造血幹細胞移植を施行しています。
2016年からはHLA半合致血縁者間移植にも取り組んでいます。

○当科主導の多施設医師主導研究を多発性骨髄腫を対象に行っています。

□ 専門外来

特に専門外来を設けておりませんが、各種血液疾患や免疫不全の診断と治療、および造血幹細胞移植などの高度先端医療について、いずれの外来日でも対応可能です。

診療部長　今井（いまい）　陽一（よういち）
医局長　半田（はんだ）　智幸（ともゆき）
外来医長　佐々木（ささき）　光（こう）
病棟医長　半田（はんだ）　智幸（ともゆき）



外来受付電話番号　0282-87-2193

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
今井（いまい）　陽一（よういち）	教　授	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植、遺伝子診断	＊1 ＊2
三谷（みたに）　絹子（きぬこ）	特任教授	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植、遺伝子診断	＊1 ＊2
佐々木（ささき）　光（こう）	准教授	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植、遺伝子診断	＊1 ＊2
中村（なかむら）　由香（ゆか）	講　師	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植、遺伝子診断	＊1 ＊2
仲村（なかむら）　祐子（ゆうこ）	講　師	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	＊2
半田（はんだ）　智幸（ともゆき）	講　師	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	＊1 ＊2
新井（あらい）ほのか	講　師	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	＊1 ＊2
中村（なかむら）　文美（ふみ）	講　師	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	＊1 ＊2
鶴見（つるみ）　茂治（しげはる）	助　教	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植、貧血	
湯浅（ゆあさ）　博美（ひろみ）	助　教	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	＊1 ＊2
吉原（よしはら）さつき	助　教	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	
石﨑（いしざき）　敦（あつし）	専攻医	血液疾患一般	造血器腫瘍、造血幹細胞移植	

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般社団法人　日本内科学会　総合内科専門医
＊2：一般社団法人　日本血液学会　血液専門医

□ その他

特に紹介していただきたい疾患

○急性白血病：化学療法、同種造血幹細胞移植を行っています。
○慢性骨髄性白血病：分子標的療法、化学療法、同種造血幹細胞移植を行っています。
○悪性リンパ腫：化学療法、抗体療法、自家末梢血幹細胞移植を行っています。
○多発性骨髄腫：化学療法、分子標的療法、自家末梢血幹細胞移植を行っています。
○再生不良性貧血：免疫抑制療法、同種造血幹細胞移植を行っています。
○骨髄異形成症候群：輸血、メチル化阻害薬による治療、サイトカイン療法、ビタミン療法、免疫抑制療法、化学療法、あるいは同種造血幹細胞移植を行っています。

回診、カンファレンス

○教授回診	月	pm 1:00 ～
○臨床カンファレンス	月・金	pm 3:00 ～
○研究カンファレンス	木	pm 6:00 ～
○骨髄像鏡検カンファレンス	月	pm 4:30 ～（月２回）、火　pm 5:00 ～

腎臓・高血圧内科

□ 診療内容

腎臓病、高血圧を中心に広く腎臓疾患に関して診療を行っています。

当教室の診療活動は地域医療機関とも密接な連携をとりながら行われていることに特徴があり、常に患者の皆様方の側に立った診療を目標としています。

□ 特徴・特色

1. 腎炎・ネフローゼ：腎生検による確定診断と治療法の決定
   蛋白尿、血尿、ネフローゼ症候群を呈する原発性・二次性の腎疾患に対して、腎生検による病理組織学的診断に基づいた専門的治療を行っています。IgA腎症に関する多施設共同研究にも参加しています。
2. 急性・慢性腎不全：血液透析療法、腹膜透析療法
   急性腎不全、末期腎不全に対する血液透析、腹膜透析（CAPD）などの血液浄化療法を行っています。年間約100例の新規透析導入を行い、地域透析医療の中核として関連施設と連携した維持透析症例の診療を行っています。
3. 経皮的ブラッドアクセスのカテーテル治療
   透析患者さんのシャントなどのブラッドアクセストラブルに対し、年間200例以上の経皮的血管形成術や血管内ステント留置術を行っています。ブラッドアクセス法のひとつである恒久的カテーテル挿入も行っています。
4. 血漿交換等のアフェレーシス療法
   血液浄化療法の一環として、血漿交換療法（自己免疫疾患、神経筋疾患など）、血液吸着療法（薬物中毒、エンドトキシン、家族性コレステロール血症）などへのアフェレーシス療法を行っています。
5. 高血圧
   多くの高血圧患者さんを診療し、県内の各施設より二次性高血圧、重症高血圧や合併症をもつ高血圧患者さんの紹介を受け、専門的医療を行っています。高血圧の病態診断とそれに適した降圧薬の調整、高血圧性臓器障害・心血管病リスクの評価、心機能評価、二次性高血圧の確定診断を含む高血圧に関する診療を行っています。高血圧に関する多くの多施設共同研究にも参加しています。

□ 専門外来

高　血　圧：頼（火・土）、本多（火・木）、藤乗（水）
心不全、弁膜症：本多（火・木）
腎　疾　患：頼（火・土）、藤乗（水）、村山（金）、大平（木）、小野田（火）、平尾（水）、海賀（月）
血 管 疾 患：小林（木午後）
C A P D：佐藤（木）、髙橋（月）、原田（月）

□ その他

特に紹介していただきたい患者さん
◆血尿や蛋白尿が認められる
◆腎機能が低下してきた
◆CKD（慢性腎臓病）の進行を抑制したい
◆高血圧のコントロールがつかない
◆電解質異常の原因が分からない
◆維持透析中の合併症や透析シャントトラブルを診てほしい

＊医療機関からの慢性腎臓病（CKD）患者さんの紹介基準
①eGFR値による紹介基準
・40歳未満：60mL/分/1.73m2未満
・40歳以上：45mL/分/1.73m2未満
・3か月以内の30%以上のeGFR低下
②蛋白尿による紹介基準
・検尿の場合：蛋白尿(+)以上
・尿蛋白/クレアチニン比：0.5g/gCre以上（随時尿）
・蛋白尿((±)だが血尿陽性(+)
・糖尿病がある場合：蛋白尿(±)以上

患者さんの検査値が、上記の①または②の項目に一つでも該当する場合は、一度ご紹介をお願いします。

（ご紹介いただく際のお願い）
・健診で指摘されたeGFRの異常は、ご紹介いただく前に再検査をお願いします。
・絶飲食下では脱水によりeGFRが低めに出ますので、自由に飲水・摂食した上での再検査をお願いします。
・尿蛋白の異常は、可能な限り尿蛋白/クレアチニン比の定量をお願いします。
・血清クレアチニン値の経時的推移の情報があればお知らせください。
・処方内容をお知らせください。（患者さんにお薬手帳を持参させても結構です。）

診療部長	賴　建光
血液浄化センター長	藤乗　嗣泰
医局長	平尾　潤
外来医長	本多　勇晴
病棟医長	海賀安希子

外来受付電話番号　0282-87-2195

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野
賴　建光	教　授	腎疾患、高血圧
藤乗　嗣泰	教　授	腎炎・ネフローゼ
本多　勇晴	准教授	高血圧、心不全、超音波
小林　直彦	非常勤講師	フットケア、心血管疾患
平尾　潤	講　師	血液透析、AKI
海賀安希子	助　教	腎疾患、腹膜透析
内田　麻友	助　教	血液透析、腹膜透析
高橋　利明	助　教	ブラッドアクセス
石光　晃	助　教	腎疾患、血液透析
阿部　誠	助　教	腎疾患、腹膜透析
横山　翔平	助　教	腎疾患
村山　慶樹	非常勤助教	血液透析、ブラッドアクセス
大平　健弘	非常勤助教	腎炎・ネフローゼ、ブラッドアクセス
小野田　翔	非常勤助教	血液透析、腹膜透析、水・電解質
永瀬　秋彦	非常勤助教	腹膜透析、ブラッドアクセス
佐藤　由佳	助　教	腎疾患
荒川　春奈	助　教	腎疾患
髙橋　知里	レジデント	腎疾患
原田　慎也	レジデント	腎疾患
道添翔太郎	レジデント	腎疾患

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

回診、カンファレンス

①教授回診：金　午後２時～
②腎・高血圧カンファレンス：月　午後５時30分～
③症例検討会：金　午後５時30分～７時

脳神経内科

□ 診療内容

○脳卒中（脳梗塞、脳出血、TIA）の診療、特にt-PAや血栓回収デバイスを用いた救急医療
○頭痛（片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛）、てんかん、しびれ（三叉神経痛など）、めまい、各種内科疾患に伴う神経障害
○睡眠時無呼吸症候群、レム睡眠行動異常症、ナルコレプシー、レストレスレッグス症候群（むずむず脚症候群）、周期性四肢運動異常症を中心とした睡眠関連疾患全般
○アルツハイマー病、脳血管性認知症、Lewy小体型認知症、前頭側頭葉変性症などの認知障害
○脳炎、髄膜炎、破傷風などの感染症
○パーキンソン病、多系統萎縮症、脊髄小脳変性症などの変性疾患
○筋萎縮性側索硬化症（ALS）などの運動ニューロン疾患
○ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー（CIDP）、遺伝性ニューロパチーなどの末梢神経疾患
○重症筋無力症、多発性硬化症などの免疫性神経疾患
○多発筋炎、封入体筋炎、筋ジストロフィーなどの筋疾患

□ 診療体制

○外来には各曜日とも２～３名の専門医（日本神経学会専門医）が配属されております。日本内科学会、日本脳卒中学会、日本頭痛学会、日本睡眠学会、老年精神神経学会、日本超音波医学会の各専門医も診療にあたっております。
○入院された方には、基本的にはひとりの医師が主治医として担当いたしますが、チーム医療を心がけており複数の指導医のもとで診療にあたります。診療班毎に週２回程度の回診、カンファレンスを行っています。
○教授回診（鈴木圭輔）　水曜日　午前10：00～
○新患紹介　水曜日　午前　8：40～
○カンファレンス　水曜日　午後　5：00～
（抄読会、症例検討会、学外講師による勉強会など）
○脳卒中カンファレンス　木曜日　午後6：30～
（脳神経外科と合同で全ての脳卒中を対象に行います）
数名の開業医、勤務医、あるいは他科の医師にもご参加いただいております。お気軽にご参加ください。

□ 特徴・特色

○脳卒中センターと連携し、脳卒中には直ちに対応します。特に発症後4.5時間以内の超急性期脳梗塞に対する血栓溶解療法や脳神経外科と連携し、カテーテルによる血栓除去術も行っています。また血管性うつ（脳梗塞に伴ううつ状態）の治療や動脈硬化診断および治療も行っています。
○片頭痛、パーキンソン病に対する新薬治療を行っています。
○ギラン・バレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症に対する高度先進医療を行っています。特に、ギラン・バレー症候群、CIDPは専門スタッフにより、迅速かつ厳格な診断を行います。最先端の研究・治療により治療効果をあげています。
○ALS、筋ジストロフィーなどの神経・筋難病患者さんに対して、関連病院や地域開業医との連携・協力のもと診療を行っています。
○睡眠時無呼吸症候群をはじめ上記の睡眠関連疾患全般に対応しています。大学病院中央部門の睡眠医療センターにおいて関連する診療科・部門と連携して、睡眠医療外来と睡眠ポリグラフ検査を担当しています。

□ 専門外来

○もの忘れ外来　（毎週月午後、水・木曜日午前中）
担当医　櫻本浩隆、石井悠子、渡邉由佳
○頭痛外来　（毎週火曜日午前中、水曜日）
担当医　鈴木紫布、鈴木圭輔、塩田椋人
○睡眠医療外来　（毎週月～金曜日、
火・水・金曜日は午前中のみ）
担当医　宮本雅之、鈴木圭輔
○パーキンソン病デバイス外来
（毎週土曜日午前中）
担当医　櫻本浩隆
専門外来は完全予約制です。かかりつけ医からの紹介状を必ず持参してください。

□ その他

獨協医科大学脳神経内科ホームページ
https://dokkyo-neurology.com/
（公社）日本脳卒中協会栃木県支部として活動しています。

診療部長　鈴木　圭輔
医局長　藤田　裕明
外来医長　舩越　慶
病棟医長　五十嵐晴紀

外来受付電話番号　0282-87-2198

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
鈴木　圭輔	教　授	神経変性疾患、睡眠障害、頭痛	パーキンソン病、多系統萎縮症、睡眠障害、頭痛	＊1
宮本　雅之	看護学部教授	睡眠障害、神経疾患一般	睡眠障害、パーキンソン病、頭痛、脳卒中、認知症性疾患	＊1
国分　則人	教　授	神経筋疾患	末梢神経疾患、電気生理検査を用いた診断	＊1
竹川　英宏	脳卒中センター教授	脳血管障害	脳卒中、超音波検査を用いた動脈硬化診断・治療	＊1
渡邉　由佳	准教授	頭痛、認知症、神経変性疾患	頭痛、パーキンソン病、認知症性疾患	＊1
舩越　慶	准教授	自己免疫性神経疾患	ギラン・バレー症候群、CIDP	＊1
星山　栄成	准教授	神経救急疾患	てんかん、髄膜炎・脳炎、頭痛	＊1
藤田　裕明	講　師	神経疾患一般	神経疾患一般、パーキンソン関連疾患	＊1
西平　崇人	講　師	神経疾患一般	神経疾患一般、脳卒中	＊1
鈴木　紫布	助　教	神経疾患一般	頭痛、神経疾患一般	
石井　悠子	助　教	神経疾患一般	脳卒中、超音波検査を用いた動脈硬化診断、神経疾患一般	＊1
駒ヶ嶺朋子	助　教	神経疾患一般	免疫性神経疾患、CIDP、神経疾患一般	＊1
大沼　広樹	助　教	神経疾患一般	神経疾患一般	＊1
飯塚賢太郎	助　教	神経疾患一般	神経疾患一般	＊1
櫻本　浩隆	助　教	神経疾患一般	神経疾患一般	＊1
五十嵐晴紀	助　教	神経疾患一般	神経疾患一般	＊1
小林　聡朗	助　教	神経疾患一般	神経疾患一般	＊1
濱口　眞衣	助　教	神経疾患一般	神経疾患一般	＊1
津久井大介	助　教	神経疾患一般	神経疾患一般	
大垣圭太郎	助　教	神経疾患一般	神経疾患一般	
塩田　椋人	助　教	神経疾患一般	神経疾患一般	
松林　賢照	レジデント	神経疾患一般	神経疾患一般	
木村真由香	レジデント	神経疾患一般	神経疾患一般	
樋田良太郎	レジデント	神経疾患一般	神経疾患一般	
森戸　紀昌	レジデント	神経疾患一般	神経疾患一般	
横田　徳継	非常勤講師	神経疾患一般	神経疾患一般	
加治　芳明	非常勤講師	神経疾患一般	神経変性疾患、神経疾患に伴ううつ、神経疾患一般	
椎名　智彦	非常勤助教	神経疾患一般	神経疾患一般、頭痛、パーキンソン病のデバイス治療（DBS、LCIG）	

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般社団法人　日本神経学会　神経内科専門医

内分泌代謝内科

□ 診療内容

当科では、内分泌代謝疾患全般について診療を行っております。入院では年間1,500名弱（メイン500名・兼科1,000名）の患者さんの治療を行い、外来は、毎日4～5名の医師が担当し専門外来の他にも特殊外来を設けています。糖尿病の診断・治療を中心に行っており、年間約5,000名弱の糖尿病患者さんを診療しております。特に糖尿病の治療は、食事・運動療法を基本とし、さらに適切な薬物療法の実践に努めています。また、合併症としての細小血管障害（網膜症、腎症、神経障害）や大血管障害（虚血性心疾患、脳卒中など）の診断・治療を各科と連携を図りながら行っています。

甲状腺機能異常症は外来での内服治療を中心に、アイソトープ治療も放射線科と連携し行っています。また年間約800例の甲状腺エコー検査を行い、腫瘍性疾患にはエコーガイド下吸引細胞診にて迅速な診断を行っています。

その他：クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫、先端巨大症、下垂体前葉機能低下症、尿崩症など内分泌疾患に対して診断・治療を行っています。

【主な対象疾患】

糖尿病（1型、2型、妊娠糖尿病、その他の糖尿病）
内分泌疾患
　甲状腺疾患、視床下部・下垂体疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、その他（性腺疾患など）
肥満症（メタボリック症候群も含む）
脂質異常症・高尿酸血症
内分泌性高血圧症
その他

□ 特徴・特色

1　糖尿病の診断・治療、また当院各科との連携を行い、合併症の発症・進展の予防に積極的に取り組んでいます。
2　妊娠糖尿病や糖尿病合併妊娠の内科的管理。
3　皮下連続式血糖測定装置（CGM）や、フラッシュグルコースモニタリング（FGM）を用いた血糖コントロール。
4　持続皮下インスリン注入療法（CSII）による糖尿病治療（パーソナルCGM機能搭載インスリンポンプ（SAP）も含む）。
5　糖尿病性末梢神経障害（DPN チェック）・血流障害の評価（ペインビジョン（知覚・痛覚定量分析装置）やSPP（皮膚に近い組織の血流測定）など）。
6　動脈硬化症・血管内皮機能の評価（ABI（足関節上腕血圧比）、FMD、Endo PAT-2000）。
7　甲状腺機能異常症の診断と治療。
8　バセドウ病のアイソトープ治療。
9　甲状腺癌の診断、外科との連携。
10　内分泌性高血圧の診断と治療。
11　各種負荷試験による迅速な内分泌機能検査・診断。
12　肥満症の診断と治療（インピーダンステクノロジーによる内臓脂肪面積の算出も可能）。
　糖尿病、内分泌疾患、肥満、脂質異常症、内分泌高血圧症の診断・治療に対して十分対応できる体制をとっています。
　また、フットケア外来にて、糖尿病認定看護師による糖尿病足病変（潰瘍・壊疽など）の専門的なケアも行っています（要予約制）。

□ 特殊外来（要予約制）

甲状腺超音波（超音波下穿刺吸引細胞診）：火曜日、金曜日：PM 2:30 ～
肥満外来　　：金曜日：PM 1:00 ～
糖尿病合併症外来：水曜日：PM 1:00 ～
フットケア外来　：AM適時行っております

□ その他

教授回診	月曜日	PM 1:30 ～
医局会・症例検討会	月曜日	PM 5:00 ～
チームカンファレンス	火曜日	
	水曜日	

特に紹介していただきたい疾患

糖尿病	1型糖尿病 2型糖尿病（コントロール不良症例） 妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠 インスリンポンプ療法（CSII・SAP）導入
甲状腺機能亢進症	アイソトープ治療も行っています。
甲状腺腫瘍	吸引細胞診や、巨大嚢胞病変に対してはエタノール注入療法も行っております。
高度肥満症	ダイエット入院や超低カロリー食事療法を行っています。消化器外科と連携を取り、肥満外科手術についても検討します。
その他	脳下垂体疾患・副甲状腺疾患・副腎疾患

きすげ会（糖尿病患者友の会）（日本糖尿病協会所属）

3ヶ月に1回の勉強会を開催しています。

診療部長　麻生　好正
医局長　櫻井慎太郎
外来医長　倉井　英卓
病棟医長　田沼　大

外来受付電話番号　0282-87-2196

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	外来担当日	専門医
麻生　好正	教授	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患、その他の内分泌疾患	月・金	＊1 ＊2 ＊3
薄井　勲	教授	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患、その他の内分泌疾患	水・金	＊1 ＊2 ＊3
城島　輝雄	准教授	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患、その他の内分泌疾患	水・土	＊1 ＊2 ＊3 ＊4
飯嶋　寿江	講師	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患、その他の内分泌疾患	火・土	＊1 ＊3
登丸　琢也	講師	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患、その他の内分泌疾患	月・木	＊1 ＊2 ＊3 ＊4
櫻井慎太郎	講師	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患、その他の内分泌疾患	火・金	＊1 ＊3
加藤嘉奈子	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	火	＊2 ＊3 ＊4
相良　匡昭	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	火・木	＊1
齋藤　昌大	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	水・木	＊3
井上有威子	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	木	＊1
二井谷隆文	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	土	＊1 ＊2
岸　遼	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	（出向中）	＊1 ＊2
大平恵理子	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	木	＊2
倉井　英卓	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	水	
平尾菜々子	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	月・金	＊1
田沼　大	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	火	＊1＊5 ＊6
須田佳菜子	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	月	
神賀　雄介	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	金	
齋藤　千明	助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	月	
中村　翼	レジデント	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	（出向中）	
鯨井　拓也	レジデント	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	（出向中）	
山海　嘉奈	レジデント	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	土	
菊川　大夢	レジデント	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	木	
繁澤恒太郎	レジデント	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	（出向中）	
若松　翔	非常勤助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患	水	＊1
新沢　敏満	非常勤助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患		
加瀬　正人	非常勤助教	内分泌代謝	糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患		＊1

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般社団法人　日本糖尿病学会　糖尿病専門医
＊2：一般社団法人　日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医
＊3：一般社団法人　日本内科学会　総合内科専門医
＊4：一般社団法人　日本甲状腺学会　甲状腺専門医
＊5：一般社団法人　日本内科学会　内科専門医
＊6：一般社団法人　日本内分泌学会　内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医

呼吸器・アレルギー内科

□ 診療内容

当科は、呼吸器疾患、アレルギー疾患、胸部腫瘍、感染症の各領域にわたる幅広い疾患を受け持ち、関係する症状および主な対象疾患は、以下のとおりです。

【関係する症状】

・咳、痰　・喘鳴　・鼻汁　・鼻閉　・胸痛
・息切れ、呼吸困難　・喀血、血痰　など

【主な対象疾患】

＜アレルギー疾患＞
・気管支喘息　・薬物アレルギー　・ハチアレルギー
・食物アレルギー　・花粉症　・アナフィラキシーショック
・好酸球性多発血管炎性肉芽腫症
・アレルギー性肺アスペルギルス症など

＜呼吸器疾患＞
・肺悪性腫瘍（肺癌、縦隔腫瘍、悪性胸膜中皮腫など）
・肺炎、胸膜炎
・COPD（肺気腫、慢性気管支炎）　・肺化膿症、膿胸
・肺真菌症　・肺結核、結核性胸膜炎、非結核性抗酸菌症
・間質性肺炎、肺線維症
・過敏性肺炎　・気管支拡張
・急性呼吸窮迫症候群（ARDS）　・自然気胸、縦隔気腫
・サルコイドーシス
・肺病変を伴う膠原病や血管炎症候群
・ニューモシスチス肺炎など
　肺病変を伴うHIV感染症　など

呼吸器疾患については、以下の気管支鏡や胸腔鏡などの最新診断手法と治療技術に基づいて診療を行っています。

【主な検査内容】

気管支鏡：胸部X線やCT検査で異常がある場合、確定診断を目的に行います。口から細い内視鏡を入れて、気管や肺の内部を観察し、肺の一部を採取したり、内部を洗浄する検査です。苦痛が少ない静脈麻酔法を採用し、また、超音波ガイド下の気管支鏡など最先端の技術を駆使しています。確定診断率が高く、治療方針決定のために重要な検査です。

局所麻酔下胸腔鏡：胸に水が溜まる状態（胸水）や膿ができた場合（膿胸）などに、病気の診断とともに治療も兼ねて行う検査です。局所麻酔にて行うために負担も軽く、病気の早期診断にも大変有用です。

□ 診療体制

【外来】 毎日４～５名が担当し、学会開催日などを除き、連日各分野に対応できる体制をとっています。

【入院】 チーム医療を行っており、主治医または担当医として患者さんを直接受け持つ医員と指導医による会議を週に２回開いています。その会議で、最終診断や詳細な治療方針などが話し合われ、最善の方法が選択されるだけでなく、医療過誤の予防にも努めています。

また、呼吸器外科や病理学講座、他施設との合同検討会や、世界を代表する臨床医および研究者を招待しての講演会も定期的に行っており、最新の医療情報・技術を維持し続けるように医局員一同、努力しています。

患者さんのご紹介について、急がない患者さんのご紹介は外来へ、入院の必要な患者さんのご紹介は、日勤帯は外来を通じて入退院担当医師へ、夜間・休日は当直医へ連絡をお願いします。多くの救急患者さんを受け入れるために、症状改善後は逆紹介しておりますので、ご協力をよろしくお願い致します。

□ 専門外来　－すべて予約制－

専門外来	曜日	時間	担当医
腫瘍外来	月 ～ 金	午前・午後	仁保教授、新井講師、曾田医員、奥冨（朋）医員
禁煙外来	月・木	午後	武政准教授

診療部長	仁保（にほ） 誠治（せいじ）
医局長	奥冨（おくとみ） 泰明（ひろあき）
外来医長	新井（あらい） 良（りょう）
病棟医長	曽田（そだ） 紗世（さよ）

外来受付電話番号　0282-87-2197

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	特に専門とする領域	専門医
仁保（にほ） 誠治（せいじ）	教　授	肺がん	＊1 ＊2
清水（しみず） 泰生（やすお）	教　授	肺がん、間質性肺炎、喘息、COPD	＊1 ＊2 ＊3
武政（たけまさ） 聡浩（あきひろ）	准教授	呼吸器内視鏡、喘息、COPD	＊1 ＊2 ＊3 ＊4
新井（あらい） 良（りょう）	講　師	肺がん、呼吸器疾患	＊1 ＊2 ＊3 ＊4
池田（いけだ） 直哉（なおや）	助　教	呼吸器病学	＊1 ＊2 ＊3 ＊4
曽田（そだ） 紗世（さよ）	助　教	呼吸器病学	＊1 ＊2
奥冨（おくとみ） 朋子（ともこ）	助　教	呼吸器病学	
清水（しみず） 悠佳（ゆか）	助　教	呼吸器病学	
内田（うちだ） 信彦（のぶひこ）	助　教	呼吸器病学	＊2 ＊4

（清水、武政、池田は呼吸器内視鏡センター兼任）

＊1 日本内科学会総合内科専門医　＊2 日本呼吸器学会呼吸器専門医　＊3 日本アレルギー学会アレルギー専門医　＊4 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医

病棟担当医

氏名	職名	専門領域
奥冨（おくとみ） 泰明（ひろあき）	助　教	呼吸器病学
中村（なかむら） 祐介（ゆうすけ）	助　教	呼吸器病学
塚田（つかだ） 梓（あずさ）	助　教	呼吸器病学
塚田（つかだ） 伸彦（のぶひこ）	助　教	呼吸器病学
矢澤（やざわ） 那奈（なな）	助　教	呼吸器病学
吉田（よしだ） 亘輝（のぶあき）	助　教	呼吸器病学
鈴木（すずき） 智成（ともなり）	レジデント	呼吸器病学
稲葉美寿季（いなばみずき）	レジデント	呼吸器病学
須田佳弥子（すだかやこ）	レジデント	呼吸器病学
手塚（てつか） 尊俊（たかとし）	レジデント	呼吸器病学

□ 特徴・特色

1．日本内科学会、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本呼吸器内視鏡学会などの認定施設に指定されており、各専門医・指導医により、専門的かつ包括的な診断を実践しています。
2．肺癌治療は、JCOGやNEJ、TORGなど全国臨床試験グループに所属し、最先端の臨床試験を行っています。
3．局所麻酔下胸腔鏡や超音波ガイド下気管支鏡などの最新機器を用いた検査を行い呼吸器疾患の診断率の向上に努めています。
4．肺癌の光線力学療法、ステントなど気管支インターベンション、重症喘息の気管支サーモプラスティーなど最先端治療を積極的に行い、他施設、他県からも紹介患者を多数受け入れています。
5．花粉症の舌下免疫療法など、アレルギー疾患の先端医療を積極的に行っています。
6．間質性肺炎の診断や抗線維化薬による治療、気管支喘息やアレルギー疾患に対する生物学的製剤による治療に精通した指導医を中心に最適な治療を提供しています。

□ その他

【週間スケジュール】

下記以外に、他科や他施設との合同検討会を不定期で行っています。

○新患症例検討会	毎週月・木曜日8:10～
○病理検討会	毎月第2火曜日16:30～
○医局会	毎週月・木曜日8:00～
○入院症例検討会	毎週月曜日16:00～
○病棟回診	毎週木曜日9:00～
○研究会または勉強会	毎週木曜日17:00～
○肺移植検討会	不定期

リウマチ・膠原病内科

□ 診療内容

主な対象疾患

関節リウマチ　乾癬性関節炎　脊椎関節炎　膠原病　全身性エリテマトーデス　強皮症　多発性筋炎／皮膚筋炎　混合性組織結合病（MCTD）　シェーグレン症候群　成人スティル病　ベーチェット病　リウマチ性多発筋痛症　血管炎症候群（顕微鏡的多発血管炎　多発血管炎性肉芽腫症　好酸球性多発血管炎性肉芽腫症　高安動脈炎　巨細胞性動脈炎など）IgG4関連疾患　家族性地中海熱

□ 特徴・特色

関節リウマチや膠原病は、免疫が不具合を起こることで生じ、全身に多彩な症状を示すのが特徴です。問診・診察に加えて様々な検査を組み合わせて診断・評価を行います。重症度は患者さんにより異なり、通院が不要な方から生命に関わる方まで様々です。治療は炎症や免疫を抑える薬物治療が中心となりますが、長期にわたりじっくりと治療に取り組んで行く必要があります。以前はグルココルチコイド（副腎皮質ステロイド）が治療の中心であり、その長期使用による副作用が大きな問題でしたが、近年分子標的薬を始めとして治療薬が進歩し、リウマチ膠原病患者さんの生命予後・生活の質は改善しつつあります。

当科では大学病院の強みを生かし、多くの診療科と連携して診療を行っています。関節リウマチの治療はリウマチセンターとして、患者さんの状態により、整形外科・リハビリテーション科と協力しながら診療を行います。全外来ブースに超音波機器を設置し、関節エコーにより正確な診断・評価を行うことができるのも大きな特徴です。

また、アレルギーセンターとして、アレルギー症状や好酸球増多を示す自己免疫性疾患の診察も行います。

□ 診療体制

外来受診

初診：月～金

より質の高い診療を行うため、原則初診は予約制をとっております。

医療機関のみなさまへ：

急ぎでない場合

当科宛ての紹介状を患者さんにお渡しして、お電話で予約を取っていただくようにお伝えください。画像、検査データなど、診療に役立つ情報も添付してください。

急ぎの受診が必要な場合

医療機関より外来直通（0282-87-2506）へお電話ください。

緊急入院が必要な場合

平日（第３土曜を除く）日勤帯

医療機関より外来直通（0282-87-2506）へお電話頂き、入退院担当医への取次ぎを依頼してください。

夜間・休日当直帯

医療機関より代表（0282-86-1111）へお電話頂き、当直医への取次ぎを依頼してください。

当科では、多くの新患・重症患者を受け入れるため、病状が安定した場合、速やかに紹介元への逆紹介をさせて頂いております。ご理解の上、ご協力くださるようお願い申し上げます。

診療部長	池田（いけだ） 啓（けい）
医局長	前澤（まえざわ） 玲華（れいか）
外来医長	田中（たなか） 彩絵（あやえ）
病棟医長	新井（あらい） 聡子（さとこ）

教育医療棟８階　0282-87-2410
外来受付電話番号　0282-87-2506

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
池田（いけだ） 啓（けい）	教　授	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	＊1 ＊2 ＊3
有馬（ありま） 雅史（まさふみ）	教　授	アレルギー、呼吸器疾患	呼吸器疾患、アレルギー疾患	＊1 ＊3 ＊4
前澤（まえざわ） 玲華（れいか）	准教授	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチの生物学的製剤治療 膠原病難治性病態の治療	＊1 ＊2
新井（あらい） 聡子（さとこ）	講　師	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	＊1 ＊2 ＊3
田中（たなか） 彩絵（あやえ）	助　教	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	＊1 ＊2
宮尾（みやお） 智之（ともゆき）	助　教	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	＊2
長谷川杏奈（はせがわあんな）	助　教	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	＊2
檜山（ひやま） 知佳（ともか）	助　教	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	
吉田（よしだ） 雄飛（ゆうひ）	助　教	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	
相澤（あいざわ） 有紀（ゆき）	助　教 （総合診療科より出向）	総合診療、関節リウマチ、膠原病、 自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	
菊地（きくち） 梓（あずさ）	助　教	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	
佐藤（さとう） 理華（りか）	レジデント	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	
諏訪（すわ） 瑞貴（みずき）	レジデント	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	
竹越麻祐子（たけこしまゆこ）	レジデント	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	
長（ちょう） 櫻子（さくらこ）	レジデント	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病	
倉沢（くらさわ） 和宏（かずひろ）	特任教授	関節リウマチ、膠原病、自己免疫疾患	関節リウマチ、膠原病、CNSループスの治療 膠原病合併間質性肺炎の治療	＊2 ＊3

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般社団法人　日本内科学会　総合内科専門医
＊2：一般社団法人　日本リウマチ学会　リウマチ専門医
＊3：一般社団法人　日本アレルギー学会　アレルギー専門医
＊4：一般社団法人　日本呼吸器学会　呼吸器専門医

□ 外来担当表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
リウマチ・膠原病内科	有　馬 田　中 吉　田	池　田 前　澤 宮　尾	池　田 田　中 菊　地	前　澤 長谷川 相　澤	倉　沢 新　井 檜　山	交代制

精神神経科

□ 診療内容

今日、精神医学に対するニーズは多様化し、身体医学との緊密な連携によって医療を提供することが必要となってきています。当科ではこれらのニーズに対応すべく精神科疾患全般について診療を行っています。

【外来】

再来は5～6名の医師が担当しており、再来患者さんは1日平均120名余り、新来患者さんは年間約1,200名が来院されています。新来患者さんの待ち時間の短縮のために各曜日に新来患者さんだけを診察する医師を配置し、2008年1月より新来患者さんの診察も予約制としております。また、専門外来としてうつ病外来及び認知症疾患医療センターの運営にも携わっています。診断にはDSM-5診断基準を用いています。

【入院】

入院では精神科疾患全般から身体疾患や薬物に基づく精神障害まで幅広くきめ細やかな治療を行い、患者さんのquality of life（QOL）の向上に努めています。病棟においても診断にはDSM-5診断基準を用い、週一度（月曜日、14:00～）、医局員全員および看護師、心理職が参加して行われる診断・治療方針決定会議にて、精神医学的診断のみならず、包括的な治療方針について徹底的に議論するというシステムをとっています。

【主な対象疾患】

○気分障害（うつ病、躁うつ病）
○神経症［パニック障害、心的外傷後ストレス障害（PTSD）、強迫性障害など］
○統合失調症
○認知症
○身体疾患に伴う精神障害
○治療薬物（ステロイドなど）による精神障害
○てんかん
○発達障害

□ 特徴・特色

○うつ病、パニック障害に対する認知行動療法
○アルツハイマー型認知症をはじめとする認知症疾患の早期診断と治療
○統合失調症、気分障害の合理的薬物療法
○身体疾患に伴う精神症状のケア（リエゾンコンサルテーション）
○職場・家庭に於けるメンタルヘルスに関する相談
○ライフサイクルの諸問題から発生したメンタルヘルスに関する相談

□ 専門外来

①認知行動療法の専門外来を行っています。
②認知症疾患医療センターにて、健常高齢者のもの忘れと認知症との鑑別診断を行い、治療可能な認知症を見逃さないように努めています。精密検査の後にレカネマブによる治療を行っています。
③中学生以下の患者さんのための児童思春期専門外来を開設し、症状の評価・適切な薬物療法・精神療法をおこなっています。
④院内もしくは院外の他の診療科に入院・通院中の患者さんに生じた精神症状についての相談に応じ、適切な処置を講じるリエゾンコンサルテーションにも力を入れております。

□ その他

特に紹介していただきたい医療

○難治性うつ病に対する薬物療法の再評価及び電気痙攣療法、及び反復経頭蓋磁気刺激療法
○パニック障害、社交不安障害、強迫性障害
○認知行動療法を希望される患者さん
○がん患者さんの心理ケア（サイコオンコロジー）
○総合病院の精神科として、他の診療科に入院・通院中の患者さんに生じた精神症状
○精神障害を持つ患者さんの身体合併症の治療受け入れ
○治療抵抗性の統合失調症患者さんへのクロザピンの導入
○軽度認知障害および軽度認知症患者さんの検査入院とレカネマブの導入

回診、カンファレンス

○診断・治療方針決定会議　　月　pm 2:00－pm 5:00
　カンファレンスでは毎週入院時・退院時にサマリーを呈示し、診療部長の診察を通して、精神科診断・治療法について充分な討議会を行っています。
○病棟グループカンファレンス　　月　am 10:00－12:00
○リエゾンカンファレンス　　月　pm　1:00－　2:00

診療部長　古郡（ふるこおり）　規雄（のりお）

医局長　川俣（かわまた）　安史（やすし）

外来医長　佐藤（さとう）　由英（よしてる）

病棟医長　佐々木太郎（ささきたろう）

外来受付電話番号　0282-87-2186

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
古郡（ふるこおり）　規雄（のりお）	教　授	精神科一般	認知行動療法、リエゾン精神医学、合理的薬物治療	＊1 ＊2 ＊3 ＊4 ＊5
菅原（すがわら）　典夫（のりお）	准教授	精神科一般	気分障害、統合失調症、職場のメンタルヘルス	＊1 ＊3 ＊4
川俣（かわまた）　安史（やすし）	講　師	精神科一般	合理的薬物治療、老年精神医学	＊1 ＊2 ＊3 ＊4 ＊5
佐々木太郎（ささきたろう）	助　教	精神科一般	精神疾患全般、リエゾン精神医学	＊1 ＊3
佐藤（さとう）　由英（よしてる）	助　教	精神科一般	認知行動療法、リエゾン精神医学	＊1 ＊3
長谷川千絵（はせがわちえ）	助　教	精神科一般	精神疾患全般、リエゾン精神医学	＊1 ＊3
菊池（きくち）　昂太（こうた）	助　教	精神科一般	精神疾患全般、リエゾン精神医学	＊1 ＊3
大和田（おおわだ）　環（たまき）	助　教	精神科一般	精神疾患全般	＊1
北林（きたばやし）　佳晃（よしてる）	助　教	精神科一般	精神疾患全般、リエゾン精神医学	＊1 ＊3
前原（まえはら）　稜（りょう）	助　教	精神科一般	精神疾患全般	＊1
吉田（よしだ）　良太（りょうた）	助　教	精神科一般	精神疾患全般	
鈴木（すずき）　桜子（さくらこ）	助　教	精神科一般	精神疾患全般	
石原（いしはら）　優吾（ゆうご）	助　教	精神科一般	精神疾患全般	
眞銅佑之介（しんどうゆうのすけ）	レジデント	精神科一般	精神疾患全般	
杉崎（すぎさき）　友美（ともみ）	レジデント	精神科一般		
高橋（たかはし）　純（じゅん）	レジデント	精神科一般		
永井（ながい）　佑樹（ゆうき）	レジデント	精神科一般		
山田（やまだ）　和樹（かずき）	レジデント	精神科一般		
朝日（あさひ）　智大（ともひろ）	レジデント	精神科一般		
人見（ひとみ）　早紀（さき）	レジデント	精神科一般		
冨吉（とみよし）　研策（けんさく）	レジデント	精神科一般		
平松（ひらまつ）　里菜（りな）	レジデント	精神科一般		
半田（はんだ）　智成（ともなり）	レジデント	精神科一般		
小杉（こすぎ）　真一（しんいち）	非常勤講師	精神科一般	統合失調症、神経症性障害	＊3
佐伯（さえき）　吉規（よしのり）	非常勤講師	精神科一般	リエゾンコンサルテーション、慢性疼痛	＊1 ＊2 ＊3
石川（いしかわ）　高明（たかあき）	非常勤講師	精神科一般	統合失調症、気分障害	＊1 ＊3
折目（おりめ）　直樹（なおき）	非常勤助教	児童・思春期精神医学		＊1 ＊3
白木（しらき）　亮祐（りょうすけ）	非常勤助教	精神科一般		＊1 ＊3
横山（よこやま）　宜史（なりふみ）	非常勤助教	精神科一般		＊1 ＊3
横山沙安也（よこやまさあや）	非常勤助教	精神科一般		＊1 ＊3

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：公益社団法人日本精神神経学会　精神科専門医　＊2：一般社団法人日本総合病院精神医学会　一般病院連携精神医学専門医　＊3：精神保健指定医
＊4：一般社団法人日本臨床精神神経薬理学会・一般社団法人日本神経精神薬理学会　精神神経薬理学専門医
＊5：公益社団法人日本老年精神医学会　専門医

皮膚科

□ 診療内容

当科では皮膚疾患全般に対応できる診療体制を整えております。外来は毎日5~6名の医師が担当し、１日約100名の患者さんが来院され、月平均の初診患者さんは150名前後で、そのうち紹介患者さんは約130名です。

入院は20名／日 前後で、重症の湿疹・アトピー性皮膚炎、皮膚腫瘍、膠原病、薬疹・中毒疹、熱傷、水疱症、乾癬、丹毒・蜂窩織炎など細菌感染症、帯状疱疹・水痘などウイルス感染症、母斑（ほくろ・あざ）、悪性腫瘍、良性腫瘍など多彩な皮膚疾患に適切な治療を行っております。近年は高齢者の皮膚悪性腫瘍の患者さんが増加しております。在院日数は15日前後です。

手術におきましては、外来では月約60件、入院では月約50件を行っております。

【主な対象疾患】

○アトピー性皮膚炎　○膠原病　○皮膚悪性腫瘍
○皮膚外科的治療を要する疾患　○乾癬
○先天性結合組織異常症
○難治性じんま疹　○薬疹　○難治性湿疹・接触皮膚炎
○皮膚細菌感染症

□ 特徴・特色

皮膚科疾患全般に対応可能です。皮膚悪性腫瘍、皮膚外科関連の疾患、膠原病、アトピー性皮膚炎、乾癬、薬剤アレルギーなどの診断、治療を施行しております。栃木県で唯一のアレルギー専門医（皮膚）教育研修施設です。アレルギーセンターの一員として各科と連携して診療を行っております。

□ 専門外来

褥瘡外来	月	pm 1：30 ～ 井川、林、神永、他
皮膚悪性腫瘍および皮膚外科外来	火	am 9：00～12：00 鈴木、森、他
レーザー外来	火	pm 1：30 ～ 鈴木
皮膚アレルギー検査外来	火	pm 1：30 ～ 担当医
アトピー性皮膚炎／乾癬外来	木	am 9：00～11：30 井川

□ その他

特に紹介していただきたい疾患

○アトピー性皮膚炎・接触皮膚炎・薬疹：パッチテストなどによる精査も行っています。2018年より新規薬剤による治療も開始しております。
○強皮症：紫外線療法（ＰＵＶＡ療法）など先端治療を行っています。
○膠原病：診断・治療体制は整っています。
○血管型エーラス・ダンロス症候群：生化学的解析・遺伝子（COL3A1）検索で確定診断を行っております。
○皮膚悪性腫瘍：専門外来で早期診断と早期治療を目指す診療を行っています。
○乾癬：レチノイド、シクロスポリンＡ、紫外線療法、生物学的製剤などで治療を行っています。
○外傷・熱傷瘢痕・術後瘢痕：皮膚外科外来で形成外科的に専門医が対応します。
○円形脱毛症：紫外線療法など様々な治療を行っております。
○ほくろ・難治性いぼ：CO2レーザーによる治療も行っています。
○難治性じんま疹：新規治療法が適応となりました。
○重症薬疹：集学的な治療を行っています。
○重症の軟部組織感染症：診断・治療体制は整っています。

回診、カンファレンス

・回　診・カンファレンス	木　pm 1：30 ～井川
・臨床・組織カンファレンス	月・木　pm 3：00 ～

診療部長	井川　健
医局長	森　智史
外来医長	野老　翔雲
病棟医長	齊藤　美穂

外来受付電話番号　0282-87-2200

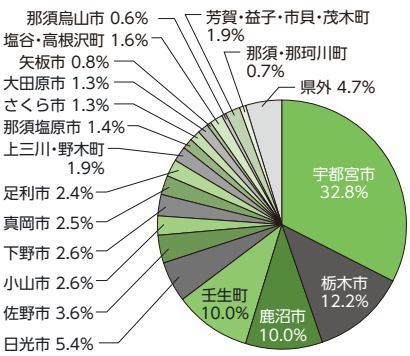
□ スタッフと専門領域（○は皮膚科専門医）

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	他専門医
井川　健	教　授○	皮膚科一般	アトピー性皮膚炎、皮膚アレルギー・免疫学、幹細胞医学、膠原病に伴う皮膚変化	アレルギー専門医 感染症専門医
鈴木　利宏	准教授○	皮膚科一般 形成外科	皮膚外科、皮膚悪性腫瘍形成外科	
林　周次郎	准教授○	皮膚科一般	強皮症、エーラス・ダンロス症候群	臨床遺伝専門医 アレルギー専門医 リウマチ専門医
石川　里子	助　教○	皮膚科一般	皮膚感染症、皮膚腫瘍	
野老　翔雲	講　師○ （外来医長）	皮膚科一般	アトピー性皮膚炎、循環障害	アレルギー専門医
神永　朋子	助　教○	皮膚科一般	薬疹、小児皮膚、褥瘡、、皮膚アレルギー疾患一般	
手束　友紀	助　教○	皮膚科一般	皮膚アレルギー疾患一般	
池上　徹栄	助　教○	皮膚科一般		
森　智史	助　教○ （医局長）	皮膚科一般		
森　ひとみ	助　教○	皮膚科一般		
井上　禎夫	助　教○	皮膚科一般		
大久保れいみ	助　教	皮膚科一般		
齊藤　美穂	助　教 （病棟医長）	皮膚科一般		
藤原由佳子	助　教	皮膚科一般		
長岡さゆこ	助　教	皮膚科一般		
神賀満裕菜	助　教	皮膚科一般		
新安　祥也	助　教	皮膚科一般		

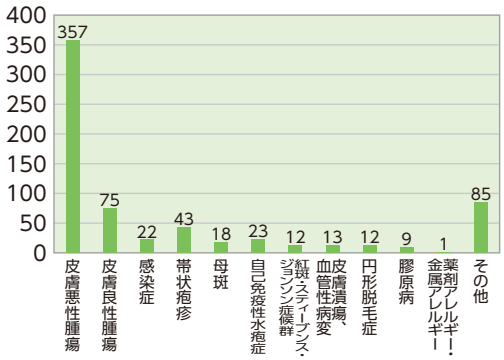
氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	他専門医
野中　一輝	助　教	皮膚科一般		
本郷　孝幸	助　教	皮膚科一般		
渡邉　千智	助　教	皮膚科一般		
髙橋　亨太	レジデント	皮膚科一般		
原　侑可	レジデント	皮膚科一般		
平野　智隆	レジデント	皮膚科一般		
杉田　瑞明	レジデント	皮膚科一般		
松山　友輝	レジデント	皮膚科一般		
山口あり裟	レジデント	皮膚科一般		
平塚進太郎	レジデント	皮膚科一般		
山路　梨公	レジデント	皮膚科一般		
嶋岡　弥生	非常勤講師○	皮膚科一般		
木村有太子	非常勤講師○	皮膚科一般		
小池　真美	非常勤助教○	皮膚科一般		
小澤　佑美	非常勤助教○	皮膚科一般		
小松崎ゆき	非常勤助教○	皮膚科一般		
日向野ゆき	非常勤助教○	皮膚科一般		
石井　英輔	非常勤助教	皮膚科一般		

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

2020年　地域別患者割合　53,601件



2020年　入院患者件数（670件）



放射線科

□ 診療内容

当科では、画像診断および画像を活用した低侵襲治療であるIVR（画像ガイド下治療）、核医学診療および放射線治療を行なっています。

院外からの画像診断やIVRのご相談の紹介については、紹介される先生から画像診断外来へ予約していただいております。

患者さんからの直接の検査や治療の申し込みは、診療の性質上受け付けておりません。診察希望やご相談は直接または電話にて放射線科外来受付に遠慮なくお申し出下さい。担当部門の医師をご予約いただき、お話を伺わせていただきます。

□ 診療体制・診療内容

【画像診断、IVR部門】

画像診断は、現代の医療に大変重要で、これなしには多くの疾患の診断や治療が行えませんが、画像診断部門では放射線科医が、磁気共鳴検査（MRI）やコンピューター断層撮影検査（CT）などの画像検査を専門的な立場で指示し、その画像を解読して専門医としての意見を報告書にして担当医の元に届けたり、診断や治療方針を臨床各科とのカンファレンスなどで協議したりしています。頭部、胸部、腹部、骨盤部、小児の画像診断については専門に診療にあたる放射線科専門医がおり、特に活発に活動しています。その他の分野においても、画像診断全般について対応が可能です。

IVR（インターベンショナルラジオロジー、画像ガイド下治療）は、高度な画像診断の技術とカテーテルや細い針、ワイヤーを用いて、画像ガイド下に小さな傷から行う低侵襲（体に優しい）治療ですが、いまや癌や救急の診療になくてはならないもので、当科でも日本IVR学会専門医を中心として積極的に行っています。怪我や手術の後、産後の母体などに生じた危険な出血をカテーテルで止血したり、動脈瘤や静脈瘤、血管奇形、リンパ管、腫瘍などの様々な疾患の治療を行っています。また、体の中に溜まった膿汁を体外に排出する処置（ドレナージ）や、癌などの診断のために組織を生検したり、腫瘍を焼灼したり、詰まった胆管や血管を開通させたりと、様々な手技に対応が可能です。日々最新の治療が提供できるように研鑽を積んでいます。

放射線科医は、各診療科の担当医からの依頼で仕事を行うことが多いため、患者さんからは放射線科医の顔が直接見えにくいですが、一人一人の患者さんの診療がよりよいものになるように、日々の業務に取り組んでいます。

画像診断部門担当医：曽我茂義教授、荒川浩明准教授、石原克俊講師、櫻井亮佑助教、比氣貞治助教、熊澤真理子助教、鈴木淳志助教、齋藤豊助教、酒井浩人助教、菅野徹助教（専攻医）、（非常勤）塩山靖和特任教授

【核医学部門】

放射性同位元素を患者さんに投与して検査を行う分野で、特別な専門的知識を必要とする分野です。全て担当医からの依頼で検査を実施しており、原則として院内の患者さんのみを扱っています。

また、放射線同位元素を用いた治療も行っています。

核医学部門担当医：（兼任）中神佳宏教授、（非常勤）橋本禎介特任教授

【放射線治療部門（放射線治療センター）】

放射線治療センターでは主に悪性腫瘍の治療を行っています。外来診療では、新規患者さん（他診療科または他院からの紹介）の診察、放射線治療中の診察、および治療後の経過観察を行います。治療方針決定に際しては、紹介元の主治医および関連診療科と相談・連携をして最善の治療法を提供出来るように努めています。年間の新規患者数は約400-500名です。スタッフは専従医師２名、非常勤医師２名、医学物理士２名、診療放射線技師８名、看護師３名、事務２名から成り、設備はリニアック２台（エレクタ社Versa HDTM）、密封小線源治療装置（マイクロセレクトロン）１台、頭蓋内定位放射線治療専用装置（ガンマナイフ）１台を備えています。高精度放射線治療としては、孤立性肺癌や、脳転移、脊椎転移、オリゴ転移などに対する体幹部定位放射線治療、主に頭頸部癌と前立腺癌を始め、限局した癌に対する強度変調放射線治療（IMRT）を行っております。また、2016年からは子宮頸癌に対する画像誘導小線源治療（IGBT）を行っています。なお、連携病院の医師による粒子線治療に関する専門外来も開設しています（要予約。治療は連携病院で行います）。

放射線治療部門担当医：（専従）江島泰生教授、小西圭助教、（非常勤）村上昌雄特任教授、田口千藏医員

診療部長　曽我（そが）　茂義（しげよし）
医局長　櫻井（さくらい）　亮佑（りょうすけ）
放射線治療センター長　江島（えじま）　泰生（やすお）
外来医長　江島（えじま）　泰生（やすお）

外来受付電話番号　0282-87-2177

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
曽我（そが）　茂義（しげよし）	教　授	画像診断全般	IVR・腹部画像診断・脈管画像診断	＊2 ＊6
江島（えじま）　泰生（やすお）	教　授	放射線治療	放射線治療・血液腫瘍	＊3 ＊5
中神（なかがみ）　佳宏（よしひろ）	教　授	核医学全般	核医学・内用療法	＊2 ＊4 ＊7
荒川（あらかわ）　浩明（ひろあき）	准教授	画像診断全般	呼吸器画像診断	＊2
石原（いしはら）　克俊（かつとし）	講　師	画像診断全般	画像診断全般・IVR	＊2 ＊6
櫻井（さくらい）　亮佑（りょうすけ）	助　教	画像診断全般	画像診断全般・核医学・IVR	＊2 ＊6
比氣（ひき）　貞治（さだはる）	助　教	画像診断全般	腹部画像診断・IVR	＊2 ＊6
小西（こにし）　圭（けい）	助　教	放射線治療	放射線治療	＊1
熊澤（くまざわ）真理子（まりこ）	助　教	画像診断全般	画像診断全般	＊2 ＊4
鈴木（すずき）　淳志（あつし）	助　教	画像診断全般	画像診断全般	＊2 ＊4
齋藤（さいとう）　豊（ゆたか）	助　教	画像診断全般	画像診断全般	＊8
酒井（さかい）　浩人（ひろと）	助　教	画像診断全般	画像診断全般	
菅野（かんの）　徹（とおる）	助教（専攻医）	画像診断全般	画像診断全般	
村上（むらかみ）　昌雄（まさお）	特任教授	放射線治療	粒子線治療	＊3
橋本（はしもと）　禎介（ていすけ）	特任教授	核医学・放射線治療	核医学・放射線治療	＊3 ＊4
塩山（しおやま）　靖和（やすかず）	特任教授	画像診断全般	腹部画像診断・IVR	＊2 ＊6

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：公益社団法人　日本医学放射線学会　放射線科専門医
＊2：公益社団法人　日本医学放射線学会　放射線診断専門医
＊3：公益社団法人　日本医学放射線学会　放射線治療専門医
＊4：一般社団法人　日本核医学会　核医学専門医
＊5：一般社団法人　日本がん治療認定機構　がん治療認定医
＊6：一般社団法人　日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医
＊7：一般社団法人　日本核医学会 PET核医学認定医
＊8：一般社団法人　日本救急医学会／日本専門医機構　救急科専門医

小児科

□ 診療内容

当科は子どもの様々な疾患に応えられるように、各診療分野にエキスパートを揃えております。子どもに多い一般的疾患の他に、アレルギー・呼吸器疾患、血液腫瘍疾患、神経・精神疾患、内分泌代謝疾患、腎・泌尿器疾患、循環器疾患、未熟児・新生児疾患などに対して高度な専門治療を行っています。高度先進医療の設備として、無菌室病棟（無菌室２床・準無菌室12床）を有し、子どもの造血幹細胞移植実施施設として、自家末梢血幹細胞移植・血縁・非血縁者間骨髄移植を毎年約10例実施しています。 更に、重症気管支喘息に対する抗IgE抗体療法、抗IL-5抗体療法、食物、蜂によるアナフィラキシー発症高リスク児へのエピペンの導入、食物アレルギーに対する食物負荷試験、成長障害の各種ホルモン治療・コントロール不良な１型糖尿病へのインスリン持続皮下注療法・小児メタボリック症候群の治療、腎炎・ネフローゼ症候群の長期管理、乳幼児急性脳症に救命救急センターと協力し集中治療室管理、脳軽度低体温療法、低出生体重児へパリビズマブ投与によるRSウイルス感染予防などを積極的に実施しています。また、総合周産期母子医療センターが設置され、低出生体重児や疾患を有する新生児を広く県内外医療機関より受け入れ高度な医療を実施しています。

□特徴・特色

小児科の診療体制は専門性が分かれておりますが、小児科は子どもの全体像を見なくてはならない診療科であるとの認識を持ち、さらに子どもの健全な成長発達を視点におき、患者さんやご家族の立場に立った全人医療を目指しています。紹介患者さんには24時間十分な対応ができる体制をとっております。また、当科には専属の３名の臨床心理士がおり、さらに栃木特別支援学校のひばり分教室が病棟内に整備され、小中学校の教員が常駐しています。以上の様に長期入院を必要とする子どものQOL向上がはかられて、治癒後の社会生活に問題が生じないよう配慮しています。また、ご両親や兄弟も含めたトータルケアや治療後の長期フォローアップにも力をいれています。アレルギー（喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー）サマーキャンプ、糖尿病サマーキャンプ、食物アレルギー教室では毎年多くの参加者に通常の診療ではできない教育を実施しています。

□ 基本方針

各専門領域で、大学病院の責務である最先端の医療技術を患者さんへ提供するとともに、子どもの健全な成長発育に視点をおいた、患者さんとご家族の立場に立った全人的な医療を目指しています。

また、地域の医療機関との連携を密にしております。当科主催で連携小児科診療研究会を年２回開催し、紹介いただいた患者さんについて、ご紹介医にご報告させていただいております。

□ 専門外来

＊各医師の専門外来担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください。

□ その他

特に紹介していただきたい疾患

アレルギー疾患：気管支喘息、食物アレルギー、アナフィラキシー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）、口腔アレルギー症候群、アレルギー性結膜炎、ハチアレルギーなど

呼吸器疾患：慢性肺疾患（在宅酸素が必要な場合など）、慢性咳嗽など

感染症疾患：急性細気管支炎、マイコプラズマ肺炎、クループ症候群、髄膜炎、尿路感染症など

血液・腫瘍疾患：白血病、悪性リンパ腫、神経芽腫、肝芽腫、ウイルムス腫瘍、免疫性血小板減少性紫斑病、再生不良性貧血、血友病など

免疫不全・自己炎症疾患：免疫不全症候群、PFAPA症候群、家族性地中海熱など

神経疾患：てんかん、神経難病、筋疾患など

児童精神疾患：摂食障害、睡眠障害など

内分泌疾患：低身長、性早熟症、甲状腺疾患、副腎疾患、外性器異常（小陰茎など）、糖尿病、肥満、生活習慣病、メタボリック症候群など

代謝疾患：新生児タンデムマススクリーニング発見例など

腎泌尿器疾患：ネフローゼ症候群、慢性腎臓病、尿路感染症、検尿異常、夜尿症、昼間尿失禁など

膠原病：川崎病、若年性特発性関節炎、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎など

心疾患：心臓合併症を伴う川崎病、先天性心疾患、胎児心超音波検査、肺高血圧、不整脈など

遺伝性疾患：原因不明の発達遅延、先天異常

診療部長　白石（しらいし）　秀明（ひであき）

医局長　加藤（かとう）　正也（まさや）

外来医長　今高（いまたか）　城治（じょうじ）

病棟医長　佐藤（さとう）　雄也（ゆうや）

外来受付電話番号　0282-87-2201

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
白石（しらいし）　秀明（ひであき）	教　授	小児科一般、小児神経学	神経学、てんかん、脳波・脳磁図	＊1
吉原（よしはら）　重美（しげみ）	特任教授	小児科一般、アレルギー、呼吸器、感染免疫	気管支喘息、食物アレルギー、慢性咳嗽	＊1
杉田（すぎた）　憲一（けんいち）	特任教授	小児科一般、精神	発達障害	＊1
平尾（ひらお）　準一（じゅんいち）	特任教授	小児科一般、免疫、感染症、精神	気管支喘息、発達障害	
鈴村（すずむら）　宏（ひろし）	特任教授	小児科一般、臨床遺伝、新生児	未熟児成長発達、遺伝性疾患	＊1
今高（いまたか）　城治（じょうじ）	准教授	小児科一般、てんかん、小児神経、障害児医療、臨床遺伝、感染症	倫理・哲学、医事法、経営管理学、人間科学	＊1
佐藤（さとう）　雄也（ゆうや）	准教授	小児科一般、血液、腫瘍	小児がん、血液疾患	＊1
小山（こやま）さとみ	准教授	小児科一般、内分泌疾患	成長障害、小児糖尿病、肥満、副腎疾患	＊1
福島（ふくしま）啓太郎（けいたろう）	講　師	小児科一般、血液、腫瘍、感染症、免疫、アレルギー	小児がん、血液疾患、膠原病、免疫疾患、感染症、深在性真菌症	＊1
渡部（わたべ）　功之（よしゆき）	講　師	小児科一般、新生児、神経	未熟児成長発達、小児てんかん、小児神経	＊1
関根（せきね）　佳織（かおり）	講　師	小児科一般、循環器		＊1
奥谷（おくや）真由子（まゆこ）	講　師	小児科一般、血液、腫瘍	小児がん、血液疾患	＊1
加納（かのう）　優治（ゆうじ）	講　師	小児科一般、腎泌尿器	ネフローゼ症候群、腹膜透析、夜尿、摂食障害、睡眠障害	＊1
加藤（かとう）　正也（まさや）	講　師	小児科一般、アレルギー、呼吸器、新生児		＊1
藤田（ふじた）　雄治（ゆうじ）	講　師	小児科一般、アレルギー、免疫		＊1
宮本（みやもと）　学（まなぶ）	講　師	小児科一般、アレルギー、呼吸器		＊1
石井（いしい）　純平（じゅんぺい）	助　教	小児科一般、循環器、障害児医療、旅行医学		＊1
中山（なかやま）　元子（もとこ）	助　教	小児科一般、アレルギー、呼吸器		＊1
梶谷（かじたに）さゆり	助　教	小児科一般		＊1
髙岩（たかいわ）　由哉（ゆうや）	助　教	小児科一般		＊1
鷹木（たかぎ）　雄飛（ゆうひ）	助　教	小児科一般、腎泌尿器	ネフローゼ症候群、腎炎、夜尿	＊1
中山（なかやま）　幸量（こうりょう）	助　教	小児科一般		＊1
石川（いしかわ）　洵（まこと）	助　教	小児科一般		
小森（こもり）　慈海（いつみ）	助　教	小児科一般		＊1
菅原（すがわら）　沙織（さおり）	助　教	小児科一般		＊1
斎藤（さいとう）　愛美（まなみ）	助　教	小児科一般		
阿久津（あくつ）　晃（あきら）	助　教	小児科一般		
吉原（よしはら）　伸弥（しんや）	助　教	小児科一般		＊1
大髙（おおたか）　智博（ともひろ）	助　教	小児科一般		＊1
黒﨑（くろさき）　和典（かずのり）	助　教	小児科一般		＊1
佐藤（さとう）　恵美（めぐみ）	助　教	小児科一般		
野村（のむら）　好平（こうへい）	助　教	小児科一般		＊1
石﨑（いしざき）　郁絵（いくえ）	助　教	小児科一般		
大村（おおむら）　翔平（しょうへい）	助　教	小児科一般		

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
斉田（さいだ）沙佑美（さゆみ）	助　教	小児科一般		
竹田（たけだ）　圭恵（たまえ）	助　教	小児科一般		
湯浅（ゆあさ）　尚紀（なおき）	助　教	小児科一般		
飯田（いいだ）　美穂（みほ）	レジデント	小児科一般		
櫻井（さくらい）　亮佑（りょうすけ）	レジデント	小児科一般		
白川（しらかわ）　喜之（よしゆき）	レジデント	小児科一般		
濱田（はまだ）　裕史（ひろふみ）	レジデント	小児科一般		
人見（ひとみ）　浩亮（ひろあき）	レジデント	小児科一般		
谷口（たにぐち）有寿佳（あすか）	レジデント	小児科一般		
金子（かねこ）　苑永（そのえ）	レジデント	小児科一般		
合原（あいはら）　澄（さとか）	レジデント	小児科一般		
五十嵐（いがらし）美歌（みか）	レジデント	小児科一般		
島野（しまの）　浩樹（ひろき）	レジデント	小児科一般		
福田（ふくだ）　暁子（あきこ）	レジデント	小児科一般		
渡邉（わたなべ）　千絢（ちひろ）	レジデント	小児科一般		
土屋（つちや）　喬義（たかよし）	非常勤講師	小児科一般、アレルギー		＊1
菅野（かんの）　訓子（のりこ）	非常勤講師	小児科一般、アレルギー		＊1
大和田（おおわだ）葉子（ようこ）	非常勤講師	小児科一般、腎泌尿器	神経因性膀胱、腎炎、ネフローゼ症候群	＊1
萩澤（はぎさわ）　進（すすむ）	非常勤講師	小児科一般、血液		＊1
坪井（つぼい）　弥生（やよい）	非常勤講師	小児科一般、新生児、障害児医療	未熟児成長発達	＊1
宮本（みやもと）　健志（けんじ）	非常勤講師	小児科一般、循環器	小児不整脈、成人先天性心疾患、川崎病、心臓MRI	＊1
福田（ふくだ）　啓伸（ひろのぶ）	非常勤講師	小児科一般、アレルギー、呼吸器	気管支喘息、食物アレルギー、慢性咳嗽	＊1
栗林（くりばやし）　良多（りょうた）	非常勤講師	小児科一般、新生児	未熟児成長発達、新生児蘇生	＊1
安藤（あんどう）　裕輔（ゆうすけ）	非常勤講師	小児科一般、アレルギー、呼吸器		＊1
長沼（ながぬま）　純子（じゅんこ）	非常勤講師	小児科一般、内分泌疾患	成長障害、小児糖尿病、肥満	＊1
阿部（あべ）　利夫（としお）	非常勤助教	小児科一般、アレルギー、呼吸器		＊1
藤田（ふじた）　滋子（しげこ）	非常勤助教	小児科一般		＊1
山﨑（やまざき）　弦（ゆづる）	非常勤助教	小児科一般、小児社会医学	小児虐待	
刈屋（かりや）　桂（かつら）	非常勤助教	小児科一般		＊1
塚田（つかだ）　佳子（けいこ）	非常勤助教	小児科一般、神経	小児神経、小児てんかん、発達	＊1
有賀（ありが）信一郎（しんいちろう）	非常勤助教	小児科一般、循環器		
國分（こくぶ）　文香（あやか）	非常勤助教	小児科一般、循環器		

＊1：公益社団法人　日本小児科学会　小児科専門医

健診センター

□ 診療内容

1）人間ドック

○人間ドック（日帰り）月～金

身体測定、内科診察、眼底・眼圧検査、聴力検査
尿検査、便検査（二日法）、心電図、呼吸機能検査、
血液検査（貧血、血沈、血液型、肝機能、腎機能
膵機能、脂質、炎症反応、痛風、リウマチ、電解質
梅毒、肝炎、胃ピロリ、糖尿病、PSA（前立腺がん・
男性）、CA125（卵巣がん・女性））
胸部Ｘ線、胃部Ｘ線、腹部超音波

○PETドック（1泊2日）：月～火、水～木、金～土

※人間ドック（日帰り）のメニューの他に、糖負荷試験、女性は婦人科診察、マンモグラフィ、男性は前立腺MRI、PSA（前立腺がん血液検査）、PET－CT、上部消化管内視鏡検査、血液腫瘍マーカー、甲状腺検査、胃がんリスク検査、血中BNPが含まれます。

○スペシャルドック（PET－CT含む：3泊4日）：火～金

※PET－CT検査、脳MRI・MRA、頚椎MR、骨盤MR、耳鼻咽喉科診察、肝胆膵MR・MRCP、上部消化管内視鏡検査、大腸内視鏡検査、心エコー検査、乳腺超音波検査（女性）、血液腫瘍マーカー、甲状腺検査、胃がんリスク検査、血中BNPなどが含まれます。

【オプション検査】
（PETドック、スペシャルドックに含まれているものもあります）

血液検査	血液腫瘍マーカー（AFP、CEA、CA19-9およびSCC（男性）） 胃がんリスク検査、血中BNP、 アミノインデックス®（がんリスク検査） ロックスインデックス® アレルギー検査（48種類）
甲状腺検査	甲状腺超音波検査および血中甲状腺機能検査（Free T4、Free T3、TSH）
X線検査	骨密度測定
内視鏡検査	上部消化管内視鏡検査
CT検査	肺CT
MRI検査	脳MRI・MRA、頚椎MRI、胸椎MRI、 腰椎MRI、骨盤腔MRI、 肝胆膵MR・MRCP
女性	マンモグラフィ、乳房超音波検査 子宮頸がん・経腟超音波検査
睡眠時無呼吸検査	睡眠時酸素飽和度検査

2）特殊検査（がん遺伝子検査など）

・マイクロアレイ血液検査（消化器がんスクリーニング検査）
・Protokey® 膵臓がんリスク検査
・Protokey® 大腸がんリスク検査
・サインポスト遺伝子検査（先天的生活習慣病リスク、がん遺伝子検査）
・腸内フローラ検査

3）脳ドック（半日）

原則的に火・木（午前中）
※脳MRI・MRA検査および一般的な健診項目が含まれます。

4）肝胆膵ドック（半日）

原則的に火・木（午前中）
※肝胆膵MRI・MRCPおよび一般的な健診項目が含まれます。

5）検診・健診

○検診（乳がん検診、子宮がん検診など）
※ただし、契約企業のみです。
○契約健診　※ただし、契約企業のみです。
○職員検診（乳がん、子宮頸がん(予定)、胃がん）
○一般健診（一般健康診断書作成など）（要予約）
○英文による健康診断書作成（要予約・要相談）

6）各種ワクチン接種（要予約となります）

※原則18歳以上の方が対象です。
麻疹、風疹、水痘、ムンプス
A型肝炎、B型肝炎、狂犬病、日本脳炎、インフルエンザ
肺炎球菌（プレベナー、ニューモバックス）
子宮頸がん（シルガード）

□ 特徴・特色

○専門医による診察・検査：内科（当センター）、婦人科、放射線科、臨床検査センターなどのそれぞれの専門の立場からの診察および検査を行っています。また各科専門医による判定も行っています。

○精査・治療などが必要な受診者様には、事後措置の徹底のために受診希望先への紹介状を作成しています。

センター長　麻生（あそう）　好正（よしまさ）

医局長　渡邉菜穂美（わたなべ なおみ）

外来医長　知花（ちはな）　洋子（ようこ）

外来受付電話番号　0282-87-2216

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	専門医・認定医
宮地（みやち）　和人（かずひと）	特任教授	健康管理・外科一般・内視鏡検査	＊1 ＊4 ＊5 ＊6 ＊7 ＊10
渡邉菜穂美（わたなべ なおみ）	准教授	健康管理・内科一般	＊3 ＊5 ＊7 ＊9
知花（ちばな）　洋子（ようこ）	講　師	健康管理・内科一般	＊2 ＊3 ＊4 ＊5 ＊6 ＊7 ＊8 ＊9

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

＊1：一般社団法人　日本外科学会　外科指導医
＊2：一般社団法人　日本内科学会　総合内科専門医
＊3：一般社団法人　日本内科学会　認定内科医
＊4：一般財団法人　日本消化器病学会　消化器病指導医
＊5：一般財団法人　日本消化器病学会　消化器病専門医
＊6：一般社団法人　日本消化器内視鏡学会　消化器内視鏡指導医
＊7：一般社団法人　日本消化器内視鏡学会　消化器内視鏡専門医
＊8：一般社団法人　日本消化器がん検診学会　指導医
＊9：公益社団法人　日本人間ドック学会　人間ドック認定医・専門医
＊10：一般社団法人　日本がん治療認定医機構　がん治療認定医

【上部消化管内視鏡検査・腹部超音波検査担当医】

月曜日	水曜日	金曜日
宮地　和人	宮地　和人	渡邉菜穂美
渡邉菜穂美	渡邉菜穂美	大谷津まり子
	知花　洋子	

□ その他

各種健康診断

内容、費用など、ご希望によりご相談させていただきます。

回診、カンファレンス

○医局内学習会　　月　　1回
○回診（宿泊ドック）　月・水・金
○カンファレンス　　月・水・金

病理診断科

□ 診療内容

病理診断科では治療方針の決定に関わる重要な業務である病理診断（組織診、術中迅速診、細胞診）を行います。また、治療の甲斐なく不幸にして亡くなられた患者さんの診断・治療の適否、有効性の評価を検証するために病理解剖を行います。

○組織診断

・生検組織診断：病変の一部を採取して組織診断します。この結果により、治療が必要かどうか、手術をするべきかどうか等、その後の方針が決まります。

・手術で摘出された臓器・組織（検体）の組織診断：手術検体を詳細に調べ組織診断します。病気の程度や広がり、手術の適応、手術後に追加治療は必要ないか等、治療方針の決定に役立つ情報を提供します。

○細胞診断

病変部から細胞を採取して細胞診断します。組織診断に比べて簡便に診断が可能であり、特に子宮、尿、痰、体腔液（胸水・腹水）に威力を発揮します。病理医と国家資格を有した細胞検査士（スクリーナー）が協力して行います。

○術中迅速診断

手術中に採取された検体から特殊な手技で凍結標本を作製し、10～20分程度で診断が行われます。腫瘍かどうか、良性か悪性か、病変の広がり等について診断し、手術の方針、切除範囲の決定に役立ちます。

○病理解剖（剖検）

ご遺族の承諾のもとに、病死された患者さんのご遺体を解剖させていただくのが病理解剖です。生前の診断は正しかったのか、どのくらい病気が進行していたのか、治療の効果はどれくらいあったのか、死因は何か、といったことを判断します。「死を理解することによって生を助けること」が病理解剖の目的です。

□ 特徴・特色

病理診断は、病理医がどのような病気かを判断する医療行為です。病理医は幅広い知識と専門性をもとに診断を行う臨床医であり、病理診断科は医療の質を担保するquality controlの役割を担っています。

当科では、病理診断に専従するスタッフが最新の医学知識・技術を取り入れて、患者さんのニーズに対応して参ります。

○迅速・正確

患者さんから採取された検体は迅速かつ適切に処理し、複数の経験豊富な病理医により検討し、速やかに病理診断結果をご報告いたします。組織診断と細胞診断の全例に病理診断に専従する医師のダブルチェックを行います。さらに、免疫組織化学、染色体・遺伝子解析を併用し、最新の知見に基づいた質の高い病理診断を提供いたします。

○連携・発展

各診療科との情報交換を密に行い、どのようなことが病理診断に求められているのかを理解しながら、患者さんに役立つ病理診断を行います。また、各診療科との連携のもとで最新の知見を学び、病理診断をアップデートしていきます。

□ 診療実績

（件）

	組織診断	術中迅速診断	細胞診断	剖検
2023年	11,642	595	8,048	17
2022年	11,242	605	8,199	17
2021年	11,324	712	8,508	29

（件）

	免疫染色	遺伝子検査対応	電顕標本作製*
2023年	2,496	780	110
2022年	2,468	526	135
2021年	2,605	123	96

*各診療科からの研究依頼を含む

診療部長　石田（いしだ）　和之（かずゆき）

医局長　金子（かねこ）　有子（ゆうこ）

外来医長　松田（まつだ）　葉月（はづき）

外来受付電話番号　0282-87-2130

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
石田（いしだ）　和之（かずゆき）	教　授	病理診断学	消化器、移植、一般	病理専門医、細胞診専門医
金子（かねこ）　有子（ゆうこ）	講　師	病理診断学	口腔領域	口腔病理専門医、細胞診専門歯科医
松田（まつだ）　葉月（はづき）	講　師	病理診断学	中枢神経、骨軟部	
大和田温子（おおわだあつこ）	助　教	病理診断学	泌尿器、一般	病理専門医、細胞診専門医
野沢（のざわ）　友美（ゆみ）	助　教	病理診断学	胆膵、一般	病理専門医、細胞診専門医
野田（のだ）　修平（しゅうへい）	助　教	病理診断学	外科病理一般	
高岡（たかおか）　身奈（みな）	助　教	病理診断学	外科病理一般	

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください

□ その他

診療の質を高め患者さんに貢献できるよう、様々な面から医療を支えています。

○コンパニオン診断

薬剤使用の適否を病理学的に探索し決定します。

○がんゲノム診断

検体管理、解析部位の決定、解析用標本の作製、エキスパートパネルの組織写真撮影、プレゼンテーションの指導を行い、がんゲノム医療の一翼を担います。

○臨床病理カンファレンス・剖検検討会

カンファレンスを通じて臨床病理相関を行い、患者さんに役立つ病理診断を届けます。

○病理診断が関わる診療、研究のサポート

病理診断の説明、病理写真の撮影、プレゼンテーションの指導、論文作成を通じて医療の質を高める努力をします。

○地域医療

・連携病院のご協力のもとで、地域に貢献できる病理医の育成を行っています。
・病理診断のコンサルテーションをお引き受けいたします。病理医からの場合は、希望する病理医へ直接ご連絡ください。各診療科の先生方が病理診断についてコンサルテーションされる場合は、必ず診断書を作成した病理医の了承を得てからご連絡ください。
・各種染色、解析についての技術指導をお引き受けいたします。

総合診療科

□ 総合診療科とは

高齢社会や高度専門化された医療の現在を反映し、多面的な健康問題を抱える患者さんや臓器を特定しにくい原因不明の病態に悩む患者さんの力になる医療を提供する科として2016年4月に創設されました。栃木県を中心とした地域の皆様の健康を守り、また地域医療に貢献する診断・治療の能力を備えた総合診療医、そして広い視点を持って地域医療を俯瞰し行動できる医療人材を育成することを目標としています。

□ 診療内容

当科に在籍する医師チームは、急性期から慢性期まで、若年者から高齢者まで、頻度の高い疾患から稀な疾患まで、在宅から病棟まで、幅広い医療現場で訓練を受けた内科医師を中心に構成されています。多面的な健康問題を抱える患者さんや臓器を特定しにくい原因不明の病態に悩む患者さんと真摯に向き合い、それぞれの健康状態の改善を目指し、患者さんの治療に貢献させていただきます。

診察の結果、特定の専門科の診察が必要と判断される場合は、各該当の専門科と連携し紹介受診とさせていただく場合もございます。

□ 特徴・特色

大学病院として有数のPETセンターなど豊富な検査機器などを内包したハード面での特徴に加え、国際ガイドライン作成など含め各領域を世界的にリードする臨床のスペシャリストらとの円滑な連携が可能です。医局員は地域（離島）医療、がん治療、緩和ケア、在宅医療、救急医学等、様々な分野で研修を積んだ医師で構成されており、また頻繁に科内カンファレンス等を開催し、最新のエビデンスの活用はもちろん、患者背景や社会的状況に応じた包括的、俯瞰的な視点に基づいた診療を実現しています。

□ 対象年齢/症状

年齢：成人（16歳以上）
症状：原因のわからない発熱、痛み、しびれ、多種症状の混在、など多岐にわたる。
（ご不明の点はまずは一度ご相談ください）

□ 外来のご案内

現在の所、原則紹介受診とさせていただいています（平日）。ご来院の場合はまず獨協医科大学病院　総合診療科外来にお電話でご予約ください（直通TEL：87-2054）。より正確な診断のため、また診療を円滑に進めさせていただくため、必ず診療情報提供書（紹介状）ご持参でご来院くださいませ。

外来の込み合いが予測されますため、待ち時間が長くなる可能性がございます。ご了承ください。

□ 週間スケジュール

下記以外に、他科や他施設との合同検討会、著名医師を招いての教育回診、講演等を不定期に行っています。

○毎日7:15～症例検討
○毎日昼～勉強会

診療部長　志水（しみず）　太郎（たろう）
医局長　勝倉（かつくら）　真一（しんいち）
外来医長　川本（かわもと）　駿（しゅん）
病棟医長　大髙（おおたか）　由美（ゆみ）

外来受付電話番号　0282-87-2054

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門分野	特に専門とする領域	専門医
志水（しみず）　太郎（たろう）	教　授	救急・総合診療	診断戦略	日本内科学会内科指導医・総合内科専門医、日本病院総合診療医学会理事、日本プライマリ・ケア連合学会指導医、他*1*2
原田（はらだ）　侑典（ゆきのり）	准教授	救急・総合診療	診断学	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本病院総合診療医学会評議員、病院総合診療特任指導医、JMECCインストラクター、他*1*2
廣澤（ひろさわ）　孝信（たかのぶ）	講　師	救急・総合診療	診断学	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本病院総合診療医学会評議員、他*1*2
勝倉（かつくら）　真一（しんいち）	助　教	救急・総合診療	診断学	日本内科学会認定内科医、日本病院総合診療医学会評議員、認定病院総合診療医、他*1
大髙（おおたか）　由美（ゆみ）	助　教	救急・総合診療	診断学	日本内科学会認定内科医、総合内科専門医、日本プライマリ・ケア連合学会認定医、日本病院総合診療医学会評議員、病院総合診療特任指導医、ICD 他*1*2
川村（かわむら）　廉（れん）	助　教	救急・総合診療		日本内科学会認定内科医、日本病院総合診療医学会評議員、病院総合診療特任指導医、他*1
横瀬（よこせ）　允史（まさし）	助　教	救急・総合診療	診断学	日本内科学会内科専門医、病院総合診療専門医・特任指導医、認定病院総合診療医、ACLSインストラクター、他*1
坂本（さかもと）　哲（てつ）	助　教	救急・総合診療		日本内科学会内科専門医、病院総合診療専門医・特任指導医、認定病院総合診療医、他*1
川本（かわもと）　駿（しゅん）	助　教	救急・総合診療		
榎原（えのきはら）　剛（つよし）	非常勤医師	救急・総合診療	家庭医療、訪問診療、緩和医療	家庭医療専門医、他*1
原田（はらだ）　拓（たく）	非常勤医師	救急・総合診療	診断学、ER診療一般、病院総合医	日本内科学会総合内科専門医、日本プライマリ・ケア連合学会指導医、日本病院総合診療医学会認定医、老年病専門医
飯沼（いいぬま）　朗子（あきこ）	レジデント			
上野（うえの）　佳彦（よしひこ）	レジデント			
白木柚希奈（しらきゆきな）	レジデント			
佐藤（さとう）　由隆（よしたか）	レジデント			
関（せき）　泰介（たいすけ）	レジデント			
髙橋（たかはし）　弓平（きゅうへい）	レジデント			
千金楽涼水（ちぎらすずみ）	レジデント			
藤村（ふじむら）　耕平（こうへい）	レジデント			
宮﨑（みやざき）　優大（まさひろ）	レジデント			

＊各医師の担当曜日等は、別紙「外来曜日別診療医一覧表」でご確認ください
＊1　日本専門医機構総合診療特任指導医
＊2　日本専門医機構総合診療専門医